

60<sup>th</sup>  
2024  
ANNIVERSARY



認承60周年記念誌 2024

公益社団法人 五所川原青年会議所

2024  
認承60周年記念誌  
Goshogawara JC 60th Anniversary



公益社団法人 五所川原青年会議所

覚悟



Junior Chamber International Goshogawara

〒037-0052 青森県五所川原市東町17-5 [五所川原商工会館内]  
TEL. 0173-35-4049 FAX 0173-35-4044  
URL. <http://goshogawarajc.com/wp/>  
E-mail. [goshojc@mx4.et.tiki.ne.jp](mailto:goshojc@mx4.et.tiki.ne.jp)

公益社団法人 五所川原青年会議所認承60周年記念誌

《LOMスローガン》

覚悟

～過去から現在、現在から未来へ～

## JCI Creed

The Creed Junior Chamber International

We Believe

That faith in God gives meaning and purpose to human life ;  
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations ;  
That economic justice can best be won by free men through free enterprise ;  
That government should be of laws rather than of men ;  
That earth's great treasure lies in human personality ;  
and That service to humanity is the best work of life.

## 日本語意識

我々はかく信じる

真理は人生に意義と目的を与え

人類の同胞愛は国家による統治を超越し

公正な経済は我々の自由な経済活動によってこそ果たされ

政府には人治ではなく法治が必要であり

人間の個性はこの世の至宝であり

人類への奉仕が人生最大の使命である

## JCI Mission

To provide leadership development opportunities  
that empower young people to create positive change.

## 日本語意識

青年会議所は、青年が社会により良い変化をもたらすために  
リーダーシップの開発と成長の機会を提供する。

## JCI Vision

To be the foremost global network of young leaders.

## 日本語意識

青年会議所が、若きリーダーの国際的ネットワークを  
先導する組織となる。

## JC宣言文

日本の青年会議所は  
希望をもたらす変革の起点として  
輝く個性が調和する未来を描き  
社会の課題を解決することで  
持続可能な地域を創ることを誓う

## 綱領

われわれJAYCEEは  
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し  
志を同じうする者、相集い、力を合わせ  
青年としての英知と勇気と情熱をもって  
明るい豊かな社会を築き上げよう

## 【東北JC宣言】

われわれは  
新たな価値を創造する旗手として  
尊い「結」の精神を呼び覚まし  
かつてない未来を切り拓くことを誓う

# 目 次

## 御挨拶

公益社団法人五所川原青年会議所

2024年度理事長 石 田 潤 …… 1

## 御祝辞

青森県知事 宮 下 宗一郎 …… 2

五所川原市長 佐々木 孝 昌 …… 3

五所川原商工会議所 会頭 山 崎 淳 一 …… 4

公益社団法人日本青年会議所 第73代会頭 小 西 毅 …… 5

公益社団法人日本青年会議所 東北地区協議会  
2024年度会長 菅 原 啓 太 …… 6

公益社団法人日本青年会議所 東北地区 青森ブロック協議会  
2024年度会長 比 内 理 佑 …… 7

公益社団法人青森青年会議所 2024年度理事長 岡 島 裕 史 …… 8

新竹国際青年商會 2024年度會長 林 君 鴻 …… 9

## 記念誌特別企画

公益社団法人五所川原青年会議所 60年のあゆみ …… 10

10年間活動の記録 …… 22

この先10年へのビジョン …… 42

## 認承60周年記念事業紹介

認承60周年記念事業 立佞武多制作 …… 44

会員名簿 …… 46

特別会員名簿 …… 49

物故会員名簿・物故特別会員名簿 …… 54



## ごあいさつ

公益社団法人 五所川原青年会議所  
2024年度理事長 石田 潤

公益社団法人五所川原青年会議所が認承60周年を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。この記念誌が、私たちの歩みや成果を振り返る貴重な一冊となることを願っております。1963年、先人たちの志によってこの会議所が設立され、地域の発展に寄与するための活動が始まりました。先輩方の努力と情熱があつてこそ、今日の私たちがあると深く感じているとともに、関係各位並びに各地青年会議所に改めて厚く感謝申し上げます。

昨今、時代の変化、時代に合わせてという言葉をよく耳にします。物事の効率化を重視し、時間の短縮や平準化が問われる時代となっております。人口減少は加速し、この五所川原青年会議所も変革の時代を向かえる年であると時折感じます。しかし、認承60周を振り返ると大きな夢への挑戦、目標へ向かう姿勢を変えることなく突き進んできた先輩諸兄姉の【覚悟】を感じ、この【覚悟】を伝承することが更なる5年、10年へ繋がること確信しております。結果のみを求めず、過程を重要視する団体は、毎年進化し、常に反省と修正、引継ぎを繰り返し、時代の変化を受け入れながら形を変え続け継続することは強固ではないでしょうか。

結びとなりますが、先輩諸兄姉の弛まぬ努力により認承60周年を迎えることができました。これまで携わって頂きましたすべての皆様に感謝と今後も変わらぬ御指導・御鞭撻を賜りますことをお願い申し上げますと共に、これからも会員一丸となって邁進することをお誓い申し上げます。誠にありがとうございます。誠にありがとうございました。



## 祝 辞

青森県知事 宮 下 宗一郎

公益社団法人五所川原青年会議所の認承60周年を心からお祝い申し上げます。

貴会議所におかれましては、昭和39年の認承以来、長きにわたり、地域の明日を担う若きリーダーとして、子供たちの農業体験や、伝統の「奥津軽虫と火まつり」を主催されているほか、異業種交流会やOB交流会を開催し、活発な意見交換や情報発信をされるなど、英知の結集と果敢な実践・行動により、青少年の育成と地域社会の発展に貢献してこられました。石田理事長をはじめ、歴代の役員並びに会員の皆様のこれまでの御尽力に深く敬意を表します。

さて、近年、物価・燃料費高騰の影響に加え、人口減少や少子高齢化に伴う労働力不足、消費の低迷など地域経済を取り巻く環境は厳しさを増しています。人口減少等に伴い本県の域内市場が縮小していく中であっても、地域経済が持続的成長を続けていくためには、深刻化・複雑化する社会経済環境の変化に的確に対応し、生業の維持・回復を図ることが重要となります。

このため、青森県では、2040年における本県の「めざす姿」を「若者が、未来を自由に描き、実現できる社会」とし、その実現に向けて最も重要となる県民の所得向上を図りながら、一人でも多くの若者が青森県で人生を送ることに多様な可能性を見だし、「ここで暮らしたい」と思える魅力ある青森県づくりに取り組んでいきます。

特に、本県の経済と雇用を支える中小企業の稼ぐ力を向上させるため、脱炭素化による企業価値や競争力を高めるGXの推進を図るとともに、県内にある革新的技術の発掘や磨き上げ、県内外の企業との連携による新たな事業の創出を支援していきます。

また、若者の県内定着に向けて、産学官の密接な連携の下で、若者の県内志向の醸成や学生の県内就職の促進などに取り組んでいきます。

県民一人ひとりの思いに寄り添い、本県が有する価値や魅力を未来につないでいくため、新たな時代を切り拓く挑戦を続け、変化を実感し、変わっていく青森県の未来に希望を持てるよう、県民の皆様と共に新しい青森県づくりを進めていきますので、皆様のより一層の御支援と御協力をお願いいたします。

石田理事長をはじめ、会員各位におかれましては、このたびの認承60周年を契機に、今後さらに地域に根ざした青年会議所として、高い志と情熱、そして勇氣と行動力をもって、地域の活性化に、より一層寄与されますことを御期待申し上げます。

結びに、五所川原青年会議所のますますの御発展とともに、関係者の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

五所川原市長 佐々木 孝 昌

公益社団法人五所川原青年会議所が認承60周年の記念すべき節目を迎えられましたことに、心からお祝い申し上げます。

貴会議所におかれましては、昭和39年に認承されて以来「明るい豊かな社会」の創造という崇高な理念を抱き、これまでも地域の特性を活かした街づくり事業や人づくり事業を活発に展開され、数多くの実績を挙げられております。

特に「奥津軽虫と火まつり」、「親子de立佞武多」が、皆様の献身的なご努力により年を重ねるごとに盛大になっておりますことは、市政を預かるものとしてこの上ない喜びであります。

これも偏に、石田理事長をはじめ歴代理事長、会員一人ひとりが、互いに切磋琢磨され、若さと情熱を持って社会の進歩と発展に取り組まれた賜であり、深甚なる敬意を表します。

さて、人口減少や少子高齢化の急速な進行、グローバル化、デジタル化の進展など、地域を取り巻く環境は大きな変化の時を迎えております。さらには、世界情勢の緊迫化により、燃料や資材をはじめ食料等の価格高騰など社会経済活動が混迷を深めております。

このような状況の中、貴会議所の皆さんの、豊かな発想及び果敢な行動力は、活力と元気あふれる輝かしい未来を切り拓く原動力として大きな役割を果たすものと確信しております。

また、人口減少や少子化対策は、まさに「国家百年の計」によって為し得るものであり、市といたしましても、持続可能な地域社会を確立するために、10年先、20年先を見据えた施策を展開しているところであります。

今後とも、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくため、市民、民間団体、行政がまちづくりのパートナーとして、それぞれの強みを活かしながら、「市民協働」による取組を邁進してまいりたいと思っておりますので、皆様には経済界の若きリーダーとして、より一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会におかれましては、この60周年を契機に更に結束を強められ、そして、2024年度LOMスローガン「覚悟～過去から現在、現在から未来へ～」のとおり、これまで培ってこられた地域活性化への熱い思いを大切に、未来へと引き継ぎながら、地域社会の中核として一層のご活躍をご期待いたしますとともに、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

五所川原商工会議所

会 頭 山 崎 淳 一

公益社団法人五所川原青年会議所の認承60周年を、心からお祝い申し上げます。

平素より貴青年会議所におかれましては、昭和39年の認承以来、永きにわたり、英知と勇気と情熱を結集させ、地域社会への貢献に努めていることと存じます。2024年度「覚悟 ～過去から現在へ 現在から未来へ～」のスローガンを基に、さまざまな事業活動を通じて、青少年の健全な育成など地域社会の発展に真摯に取り組まれていることに深く敬意を表する次第であります。

特に、伝統行事の「奥津軽虫と火まつり」は、昭和48年から継続して実施しており、諸先輩方の功績を継承しながら、若さ溢れる英知と情熱で当市の活性化、また、地域住民に活力を与え大いに喜ばれております。

また、「立佞武多」においては、同運営委員会は「子供たちが誇りに思える祭り」を理念に掲げ、祭り運営を行っておりますが、その理念のもと貴青年会議所は「親子de立佞武多」を主管され、多くの青少年の皆さんに対し立佞武多の魅力と楽しさを提供していただいております、心より感謝申し上げます。

自分たちが生まれ、育ち、暮らしていくこの街は、自分たちの手でより魅力あふれるものにしていくのだという想いで、今後もより一層 若き情熱とエネルギーを発揮し、さまざまな事業を通じて地域社会の発展、青少年の健全育成に貢献されることを心より期待しております。

最後に、貴青年会議所のますますのご発展と会員の皆様が大いに飛躍されることをお祈りし、お祝いの挨拶といたします。



## 祝 辞

公益社団法人 日本青年会議所

第73代会頭 小 西 毅

公益社団法人五所川原青年会議所の皆様、認承60周年、誠におめでとうございます。60年という長きにわたり、地域に多くの運動を生み出してこられたことに対して、心より敬意を表します。また日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

認承より先輩諸氏の熱き想いを継承し、60周年の記念すべき年に、石田潤理事長のもと、スローガンに「覚悟 ～過去から現在、現在から未来へ～」を掲げ、明るい豊かな社会を実現するため、地域に影響を与える運動を推進されていることと存じます。貴青年会議所のメンバーが積極的に行動し、社会の価値観の変化に対応し、新たな価値を創造することで、組織と文化を次代へ継承するための節目の年となるよう願ってやみません。石田潤理事長の掲げる運動が地域の発展に寄与され、誰一人取り残さない、誰もが活躍できる組織として、貴青年会議所のメンバーの成長へと繋がりますことをお祈り申し上げます。

日本青年会議所では、「親切心が織りなす豊かさで笑顔あふれる未来へ」を基本理念に掲げ、一人ひとりの会員の優れたリーダーシップを開発することを目的とし、素朴で純粋な親切心をもって、各地の皆様と手を取り合い、明るく豊かな社会を実現させるために様々な運動を展開しております。引き続き深いご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、日本青年会議所を大いにご活用いただければ幸いです。

結びに、貴青年会議所のさらなるご発展、並びに地域において素晴らしい運動の成果を出されること、さらに、現役会員、先輩諸氏の皆様にとって本年が素晴らしい一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

Be the Leader 未来の笑顔のために



## 祝 辞

公益社団法人 日本青年会議所東北地区協議会  
2024年度会長 菅原 啓 太

この度、公益社団法人五所川原青年会議所が創立60周年を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。これまでの歴史のなかで、地域の発展にご尽力されてきた先輩諸氏の高い志を受け継ぎ、今なお力強く運動を展開されている現役会員の皆様に敬意を表したく存じます。また、平素より公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会の運動に対し、多大なるご理解ご協力をいただいておりますことを深く感謝申し上げます。

貴青年会議所現役会員の皆様をはじめ、東北地区内会員の皆様と交流する中、改めて感じたことがあります。それは『JCは、まだまだこれからだ』ということです。近年様々な課題に直面しながらも、先輩諸氏そして現役会員とこの課題に向き合ってきたからこそ、今私たちは「まちを、もっとより良くしよう」「自らが、もっとより良くなろう」という機運が高まっているように感じます。今こそ、石田理事長が掲げられるスローガン「覚悟～過去から現在、現在から未来へ～」に込められた、過去から現在と先輩諸兄弟から預かった様々な覚悟を未来に繋げるため、一つ一つの事業を噛みしめ1年間邁進していこうという想いと、東北地区協議会の本年度スローガン「ATM～明るく、楽しく、前向きに～」に込めた、何よりもまず明るく、楽しく、前向きに、メンバー一人ひとりが責任を持ち、できる、できない、を考えて行動するのではなく、挑戦し続けるからこそ、東北に新たな価値を創造することができるという想いが結び合い、素晴らしい仲間と共に、地域に新たな価値を生み出し、貴青年会議所が地域の中心として、未来への輪を広げ続けることを期待しております。

結びに、これまで地域の発展と未来を切り開いてこられた貴青年会議所の皆様に、改めて敬意を表するとともに、今後さらなる飛躍とご活躍を心よりお祈り申し上げます。そして、引き続き地域の未来を担い、次世代へとその志を受け継いでいかれることを、心から期待しております。貴青年会議所の益々の発展と、会員皆様のご健康とご多幸をお祈りし、結びの言葉とさせていただきます。



## 祝 辞

公益社団法人 日本青年会議所東北地区青森ブロック協議会  
2024年度会長 比 内 理 佑

公益社団法人五所川原青年会議所が認承60周年の節目を迎えるにあたり、青森ブロック内会員会議所を代表して心からお慶びを申し上げます。歴史を紡いでこられました各先輩方の功績に敬意を表するとともに、覚悟をもって運動を発信し続ける石田理事長を始めとする現役メンバーの皆様心からお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、津軽半島を代表する青年団体として1963年の創設並びに翌年の認承以来、地域の発展や文化の継承、人財育成に取り組んでこられたことと存じます。第52回目となる奥津軽虫と火まつりの開催は、現在の伝統に至るまで革新の連続であり、本年その準備に参加させていただいた際に感じた熱量こそが貴青年会議所の根源にあるものと感銘を受けております。また、1994年から開催されているじょっぱりロードでは子供たちへ日常では得ることができない成長の機械を提供しており、同時に親子de立佞武多において子供たちの夏の思い出づくりに寄与することで過去から現在、現在から未来へと文化を継承しながら次世代の育成を図られていることとともに、五所川原市とパートナーシップ協定を締結し五所川原市民討議会の開催を続けることで世代を越えてまちづくりの推進、地域の発展に尽くされる姿から、まさに貴青年会議所が持続可能な地域を創られる存在であることを確信しております。

青年会議所は各地域に存在する社会課題を解決し、各地域をより明るく豊かにしていく団体であり、長年に渡り各地の社会課題を解決するリーダーを輩出し続けてきました。本年、青森ブロック協議会では、人と地域の可能性を高め、魅力あふれる青森を創造する、という基本理念の元に運動を展開しておりますが、地域の魅力を高めること、社会課題を解決することに最も思いをもって行動できるのは当事者、すなわちそこに住み暮らす人々であり、中でも私たち青年世代こそ率先して行動するべきであると私は信じております。青森ブロック協議会としても引き続き、LOMにもっとも身近な日本青年会議所としてそのスケールメリットを活かし、人財育成を始めとして貴青年会議所の運動を支援して参る所存です。

結びに、貴青年会議所が認承60周年を契機とし、自らが住まう地域を持続可能なものとする運動を今後とも力強く推進され、他にはない地域独自のとがったご活躍をなされますこと、並びにメンバー皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



## 祝 辞

公益社団法人 青森青年会議所  
2024年度理事長 岡 島 裕 史

この度は公益社団法人五所川原青年会議所が認承60周年の記念すべき年を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。重ねて平素より当青年会議所に対しまして格別のご厚情を賜り、メンバー一同心より御礼申し上げます。

貴青年会議所は全国で254番目の青年会議所として1964年の認承以来、地域社会の健全な発展と次代のひとつづくりによる「明るい豊かな社会」の実現のために数多くのまちづくり、ひとつづくりなどの事業に取り組み、地域社会の発展に多大な貢献をされてきました。また、地域で活躍する多くの人財を輩出されていることは、我々スポンサーJCとしても大変嬉しく誇りに思うところであります。そして、60年という長きに渡る歴史を築き、紡いでこられました先輩諸氏のご尽力と功績に心より敬意を表したいと存じます。

創立そして認承以来、60年にわたり、郷土を愛し、愛する地域の発展のために地域社会に根ざした中心団体として、急激に変化する時代のニーズに応じた運動を展開してこられました。第52回目の開催となる「第52回奥津軽虫と火まつり」では、地域の幸せと繁栄を願うこの大切な伝統を半世紀もの間、守り続け紡いでこられましたこと尊敬の念に堪えません。そして、青少年育成事業である「第13回じょっぱりロード2024～OMOIYARI～の旅」では、青少年のリアルな体験活動の重要性、そして、豊かな体験機会の創出は地域団体としての責務という思いにとっても共感します。その他、立佞武多関連の事業など地域の特色を存分に活かしながら、地域の更なる発展のための活動と、伝統・文化を大切に守り次世代に紡ぐ運動、活動を展開する貴青年会議所は西北五地域になくてはならない存在です。

また、当青年会議所が本年度主管しました「東北青年フォーラムin青森」では、副主管として様々な場面でご協力いただき誠にありがとうございました。今後も地域のために運動を展開し、ともに手を取り合いながら切磋琢磨して参りましょう。

結びに、石田潤理事長を始めとする公益社団法人五所川原青年会議所の皆様と、それを支えてくださっているすべての皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。認承60周年、誠におめでとうございます。



## 祝 辞

新竹國際青年商會  
2024年度會長 林 君 鴻

公益社團法人五所川原青年會議所授證60周年紀念可喜可賀 謹代表台灣新竹國際青年商會致以最高的祝福 恭喜恭喜 漫延世界的疫情平靜後在貴會最欣喜的日子裡讓我們有為永久的友誼敘舊的機會致上最高的敬意 五所川原青年會議所的會員們尊守前輩教誨勵行自己的職責創造出的輝煌成績使人從心底表示佩服 相信在石田理事長率領下的團隊更會使五所川原青年會議所業績更為輝煌繁盛 恭禧恭禧

公益社團法人五所川原青年會議所認承60周年記念、誠におめでとうございます。台湾新竹國際青年商會を代表してお祝い申し上げます。世界的パンデミックが収まり、この60周年の喜ばしい日に末永く続けられる友情を語り合う機会をくださり心より感謝申し上げます。先輩方の教えを守り若い力で努力し、今日の輝かしい五所川原青年會議所であることに感服いたしております。石田理事長が率いる五所川原青年會議所の更なる輝きと益々のご繁栄をお祈り申し上げます。祝辞とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。

# 60 years of progress

## 設立総会



## 認承



## 10周年



# → 60年の歩み

## 20周年



## 30周年



## 40周年



## 50周年





**1964** 昭和39年

初代理事長  
**佐々木 康智**

- ・日本青年会議所入会 認承
- ・消費者調査を発刊 商工会議所の指導を仰ぐ
- ・交通ボックス修祓式
- ・経営セミナー開講
- ・市制10周年記念式典にて社会福祉貢献で表彰受ける
- ・五所川原まつり（ねぶた運行）に協力、会員多数参加
- ・認承証伝達式挙行



**1965** 昭和40年

二代目理事長  
**丸海老 祐造**

- ・青森JC例会参加
- ・家族同伴集会
- ・経営セミナー
- ・地方経済問題懇談会
- ・ねぶた運行を主管
- ・講演会
- ・愛の文庫贈呈式



**1966** 昭和41年

三代目理事長  
**大村 昭五**

- ・記者会見 安達兄妹再会運動
- ・安達兄妹再会
- ・光子さんNHKスタジオ102に出演
- ・安達兄妹再会運動の様相全国に報道される
- ・文春文化講演会
- ・講師 岡本太郎、北条誠、瀬戸内晴美1,100名入場
- ・愛の文庫巡回箱贈呈、図書99冊追加贈呈
- ・国際賞受賞レセプション



**1967** 昭和42年

四代目理事長  
**木下 清**

- ・ボーイスカウト結成準備会
- ・ボーイスカウト育成会結成準備会
- ・『地域開発セミナー』
- ・愛の文庫寄金
- ・女子野球サロンパスと親善試合
- ・ボーイスカウト青森県連第29団発足 市中行進行なう
- ・経営ゼミナール（テーマ）「売上増進の秘訣」



**1968** 昭和43年

五代目理事長  
**成田 實**

- ・安達信一氏を送る会
- ・児童図書贈呈式
- ・五高拓心寮へステレオ寄贈
- ・ねぶた特別委員会
- ・ねぶた運行参加
- ・会員ボウリング大会
- ・秋の家族会
- ・交通安全協会より表彰



1969 昭和44年

六代目理事長

前田 堅

- ・第1回会員ボウリング大会
- ・家庭教育学級
- ・春の家族会
- ・国旗掲揚台寄贈
- ・交通安全指導パトロール開始
- ・市教育長との座談会
- ・中華民国台中J Cメンバー歓迎会
- ・辻兵吉元日本J C会頭歓迎会



1970 昭和45年

七代目理事長

林 浩

- ・五所川原J C、新竹J C友好会締結
- ・新竹を語る座談会
- ・五所川原J Cシニアクラブ創立総会
- ・りんごジュースの会
- ・文春文化講演会
- ・有馬頼親、池波正太郎、おおば比呂司
- ・カギッ子の集い 夏泊半島一周
- ・あすの五所川原を語る市民の集い



1971 昭和46年

八代目理事長

岩谷 一正

- ・新竹J Cと姉妹会締結 児童書画交換
- ・姉妹会締結祝賀会
- ・東北地区会員大会「最優秀社会開発委員会賞」受賞
- ・J Cアジア青年の船招聘青年受入れ
- ・カギッ子慰安旅行（青少年委）十二湖西海岸
- ・第2回「明日を築く市民の集い」
- ・新竹J C姉妹会調印式



1972 昭和47年

九代目理事長

鶴谷 祿郎

- ・五J C対外紙第1号発刊
- ・第1回婦人の集い
- ・フォークフェスティバル
- ・ヤングフェスティバル
- ・青森ブロック会員大会
- ・ブロック褒賞 個人賞 安田孝右工門君
- ・青少年開発委員会賞
- ・国際交流推進賞
- ・サークル協議会第1回発起人会



1973 昭和48年

十代目理事長

工藤 勇

- ・五所川原青年サークル協議会設立総会
- ・五所川原市花と緑と小鳥の市民連合発会式
- ・「青年のつばさ」団員選考会
- ・春の家族会
- ・「青年のつばさ」研修会
- ・春の家族会
- ・フォークフェスティバル
- ・「虫送り火まつり」市内巡行



**1974** 昭和49年

十一代目理事長  
**坂本 憲昭**

- ・ 献本運動（図書館へ200冊贈呈）
- ・ 10周年特別事業市民植樹祭
- ・ チャリティーボウリング大会“交通遺児を励まそう”
- ・ 歩け歩け運動
- ・ 交通遺児を励まそうレクリエーション
- ・ 第三回ヤングフェスティバル
- ・ チャリティーダンスパーティー
- ・ 老人ホーム“くるみ園”慰問



**1975** 昭和50年

十二代目理事長  
**山谷 清**

- ・ 第二回 五所川原雪まつり大会
- ・ 日本J C会頭 佐藤敦夫LOM訪問
- ・ 教育問題特別委員会 市連Pと懇談会
- ・ 教育問題市民会議開催
- ・ 秋の家族会
- ・ 交通安全座談会
- ・ 能代青年クラブとの座談会



**1976** 昭和51年

十三代目理事長  
**前田 紀夫**

- ・ スキー教育
- ・ 太陽と遊ぼう
- ・ 飯詰不動公園に桜の苗木植樹
- ・ 八松園に植樹
- ・ 新竹児童交換訪問団結式
- ・ 第一回おはよう町内清掃
- ・ 父と子のキャンプ



**1977** 昭和52年

十四代目理事長  
**荒木関 正幸**

- ・ 市長との懇談会
- ・ 第一回おはよう清掃
- ・ 市連Pと役員との教育座談会
- ・ 札幌J Cと交換会
- ・ 虫送り火まつり（新竹J C参加）
- ・ ねぶた運行
- ・ チャリティーダンスパーティー
- ・ 全国大会式典実践的教育活動の推進最優秀賞受賞



**1978** 昭和53年

十五代目理事長  
**平山 誠敏**

- ・ 3月定例会「模擬結婚式披露宴」
- ・ 五所川原市交通事故防止市民大会
- ・ 青年の森植樹
- ・ 6月ゲスト例会「血液について考えよう」
- ・ ダミー衝撃テスト
- ・ 経営シンポジウム
- ・ ヤングフェア開催
- ・ 10月ゲスト例会「経済の現状と見通し」



1979 昭和54年

十六代目理事長

島村 吉三久

- ・2月定例会「五所川原経済の今後について」
- ・6月定例会「血液問題」
- ・キャンプ例会
- ・台湾新竹児童交歓結団式
- ・15周年記念式典
- ・文芸春秋講演  
(星信一氏、阿刀田高氏、桐島洋子氏)
- ・10月定例会「税について」
- ・12月定例会「80年代を展望する」



1980 昭和55年

十七代目理事長

尾崎 行雄

- ・自衛隊激励会
- ・エネルギー懇談会
- ・斉藤栄三郎経済講演会
- ・家族会
- ・虫送り火まつり
- ・チャリティダンスパーティー
- ・秋の家族会



1981 昭和56年

十八代目理事長

古川 敏夫

- ・定時総会
- ・リサイクル運動
- ・井上日宏氏講演
- ・障害者キャラバン
- ・アセアン公式訪問
- ・J C ねぶた運行
- ・チャリティ世界最大の魔術公演
- ・まほろば講演会



1982 昭和57年

十九代目理事長

中山 捷利

- ・定時総会
- ・交通安全パレード
- ・エネルギー問題懇談会
- ・ファミリーフェスティバル
- ・サマースクール
- ・虫送り火まつり10周年記念開催
- ・知事と語る青年の集い



1983 昭和58年

二十代目理事長

高橋 順造

- ・ずぐり廻し大会
- ・環境美化コンクール
- ・残花会、クイズ列車
- ・中学生座禅会
- ・親子キャンプ
- ・虫送り火まつり
- ・働く青年の集いキャンプ
- ・原田直之、さとう宗幸チャリティーコンサート



**1984** 昭和59年

二十一代目理事長  
**神 泰幸**

- ・雪まつりずぐり廻し大会
- ・2月定例会（100%例会）
- ・新竹JC来訪歓迎会
- ・20周年記念講演
- ・20周年記念式典
- ・サマーキャンプ
- ・虫送り火まつり
- ・クリスマス家族会



**1985** 昭和60年

二十二代目理事長  
**坂本 和彦**

- ・JCI副会頭来訪
- ・シーハイル運動市民の会
- ・クイズ列車
- ・おはよう運動
- ・交通安全「おもいやりロード」
- ・観光行政を考える会
- ・虫送り火まつり
- ・シーハイルのまち「ファミリーマラソン」



**1986** 昭和61年

二十三代目理事長  
**山口 孝夫**

- ・シーハイル運動市民の会
- ・サマースクール
- ・虫送り火まつり
- ・6万人例会（出席100%達成例会）
- ・JOCとのソフトボール交流会
- ・東日流路ふるさと観光シンポジウム
- ・サマースクール親子のつどい



**1987** 昭和62年

二十四代目理事長  
**今 謙一**

- ・市長との懇談会
- ・第一回おはよう清掃
- ・市連Pと役員との教育座談会
- ・札幌JCと交換会
- ・虫送り火まつり（新竹JC参加）
- ・ねぶた運行
- ・チャリティーダンスパーティー
- ・全国大会式典実践的教育活動の推進最優秀賞受賞



**1988** 昭和63年

二十五代目理事長  
**佐々木 正明**

- ・地協ダイアログ'88
- ・岩崎商工会青年部との懇談会
- ・3月定例会（講師 林 達夫氏）
- ・市長との懇談
- ・JR火まつりポスター撮影会
- ・奥津軽観光トライアングルロード
- ・ちびっこ野外塾
- ・虫送り火まつり



**1989** 平成元年

……地域新時代……  
今 新たなる連帯へ

二十六代目理事長  
**佐々木 孝昌**

- ・ 25周年記念講演会  
「人生のパスポートそれは感動!!」(丸山浩路氏講演)
- ・ 25周年記念事業「奥津軽観光フォーラム」
- ・ 社団法人五所川原青年会議所認承25周年記念式典  
スライド「ハルニレとともに」完成・発表
- ・ 交通安全親と子のふれあいウォーキング
- ・ 虫送り火まつり
- ・ 市民の夕べin五所川原
- ・ 会員家族会
- ・ 古川J Cとの意見交換会



**1990** 平成2年

21世紀へ向けて  
今、自立した人間、<sup>ひと</sup> <sup>まち</sup>地域

二十七代目理事長  
**尾崎 淳一**

- ・ 3 LOM合同津軽を語り合う会
- ・ 青森・秋田ブロック20周年記念船上パーティ
- ・ 青森ブロック20周年会員大会五所川原大会
- ・ ファミリーキャンプ
- ・ 親と子のふれあい講演会
- ・ 全国会員大会にて「自立した地域づくり推進賞優秀賞」受賞
- ・ 「ハルニレとともに」上映会
- ・ 日本J C褒賞受賞報告会



**1991** 平成3年

「明日の子供たちのために  
始めよう 素敵な町づくり」

二十八代目理事長  
**對馬 勉**

- ・ 室内ゲーム大会
- ・ スライド「ハルニレとともに」上映会
- ・ 火まつり座談会
- ・ 3 LOM合同ブロック公式訪問
- ・ 小谷実可子講演会
- ・ 「発見！探検！夢五所川原」オープニング
- ・ 小学生ふるさと探検 高校生サミット
- ・ 経営セミナー（於 中央公民館他3回）



**1992** 平成4年

「奥津軽、21世紀の夢  
意識と行動」

二十九代目理事長  
**天内 義秋**

- ・ 「ワクワクLD講座」
- ・ 火まつりフォーム
- ・ 日本J C西村会頭公式訪問定例会
- ・ オンブズマン勉強会及び定例会
- ・ 火まつり20周年記念事業「火まつり体験ツアー」東京出発
- ・ 虫送り火まつり20周年記念開催
- ・ 台湾新竹訪問団、市長表敬訪問及び壮行式
- ・ 秋山豊寛氏講演会



**1993** 平成5年

目指せ！<sup>まち</sup> <sup>イノベーター</sup>輝く地域の改革者  
～今、せまり来る新たな時代に向けて～

三十代目理事長  
**山口 俊輔**

- ・ 異業種10分間レクチャー
- ・ 誘致企業ネットワーク会議（もっけの会）発足
- ・ 「ハルニレ物語」ハルニレ塾
- ・ マネジメントゲーム研修
- ・ 「ハルニレ物語」火祭り研修
- ・ 「ハルニレ物語」大都市研修ツアー
- ・ 「ハルニレ物語」質問討論会
- ・ 「ハルニレ物語」高校生模擬議会



**1994** 平成6年

「今日までそして明日から  
Thinking And Doing」

三十一代目理事長  
**木村 吉幸**

- ・ニカマ作り
- ・空カン鳥設置
- ・ブロックアカデミー大学 五所川原会議
- ・市浦村姫神コンサート
- ・ハルニレ塾
- ・ハルニレスライド上映・植樹
- ・30周年記念式典
- ・ロバート議事法



**1995** 平成7年

「時代にあった」Cらしい発想と行動で  
～チャレンジ・チェンジ・チャレンジ～

三十二代目理事長  
**渋谷 公智**

- ・阪神大震災 街頭募金
- ・冬フェスティバル かまくらづくり
- ・ハルニレ塾修了式
- ・グローバルトレーニングスクール
- ・ブロックアカデミー大学第3回 五所川原会議所
- ・第11回わんぱく相撲西北五地区大会
- ・J Cふれあいジュニアキャンプ



**1996** 平成8年

「育め、変革時代の郷土のきずな  
心すなおに青年らしく」

三十三代目理事長  
**岩谷 教裕**

- ・ゴニンカン会場準備
- ・津軽地区3 L O M合同公式訪問
- ・J 振の日曜日だよ全員集合
- ・赤～いりんごのはなまつり本番
- ・わんぱく相撲西北五地区大会
- ・ですかばりーキャンプ
- ・フォトギャラリー



**1997** 平成9年

「ひとり一人の意識が 未来をひらく  
コミュニティーから地球市民へ」

三十四代目理事長  
**和島 隆志**

- ・冬フェスティバル
- ・グローバルトレーニングスクール
- ・青森ブロックアカデミー大学 五所川原会議
- ・赤いりんごの花まつり
- ・わんぱく相撲北五地区大会
- ・花火勉強会
- ・再発見・奥津軽体験フォーラム
- ・河童探検隊 in 虹の湖

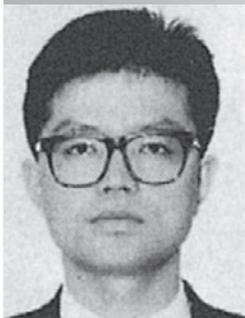


**1998** 平成10年

「わ」で創る「わ」  
歩きだそうコア時代

三十五代目理事長  
**三浦 重義**

- ・わんぱく相撲
- ・第28回青森ブロック会員大会（オルテンシア）
- ・虫送り火まつり本番
- ・地域振興委員「このまちの未来を占うフォーラム」
- ・J Cオータムスクール
- ・能代J Cとの交流会
- ・青少年委員会事業「海の道、川の道、津軽の未知」



**1999** 平成11年

未来の笑顔に向かって、  
爽やかに

三十六代目理事長

**丸海老 隆**

- ・ 認承35周年記念式典パーティー
- ・ 岩木川と十三湖ツアー
- ・ J C探検隊～メダカの学校を探して～
- ・ 奥津軽環境フォーラム(めだかサミット)  
ーそう～っとのぞいてみてごらんー
- ・ 虫送り火まつり
- ・ わんぱく相撲
- ・ クリスマス家族交流会



**2000** 平成12年

やさしい心は「時」を築く  
育もう青年の英知と勇気と情熱で!

三十七代目理事長

**佐藤 工**

- ・ 奥津軽虫と火まつり
- ・ IWAKIリバーサイド Live
- ・ メダカウォッチング2000
- ・ わんぱく相撲全国大会伝達式
- ・ 奥津軽環境フォーラム2000
- ・ 2001年度火まつり討論会
- ・ 地域の先生づくり運動



**2001** 平成13年

～Dreame come true 夢はかなえられる～  
夢見た未来から 夢創る新世紀へ 始めよう 私達から

三十八代目理事長

**前田 修子**

- ・ 日本J Cの土屋会頭訪問例会
- ・ 親子参加による火まつり製作体験
- ・ 奥津軽虫と火まつり
- ・ 岩木川魚釣り道場
- ・ 「21世紀のCD事業をどう考える」
- ・ 新竹J C来訪
- ・ わんぱく相撲



**2002** 平成14年

Hearty Challenge 「心からの挑戦」  
自らの心の挑戦が大きな気概に  
大きな気概が未来を変える!

三十九代目理事長

**小田川 一夫**

- ・ 「市町村合併を考える」
- ・ 奥津軽虫と火まつり
- ・ マネージメント例会 (とことんやさしいお金の話)
- ・ 「ーりんご王国紀行ーぼくらのりんごどこへ行く!？」
- ・ 「われわれが理想とするまち」
- ・ 4月定例会 (ホームページ作成入門)
- ・ クリスマス家族交流会



**2003** 平成15年

自己を見つめ直し、過去の明日から未来の明日へ  
ファイト一発! 愛情一本

四十代目理事長

**三浦 敦**

- ・ 人間プログラム (未来の善きリーダーになる為に)
- ・ 奥津軽虫と火まつり
- ・ 4月定例会 (環境問題「水資源」)
- ・ 「出来る出来る!周年事業」
- ・ 8月定例会 (法律勉強会)
- ・ 会員拡大例会 (出来る・出来る・貴方も出来る会員拡大=意識改革)
- ・ 11月定例会 (地域経済の活性化)



**2004** 平成16年

「目の前のドアを  
その手で開けよう  
次のステップへ進むために」

四十一代目理事長  
**小田桐 二郎**

- ・40thアニバーサリー
- ・私たちの街のPRを考える
- ・レッツゴー40周年
- ・スポーツ家族交流例会
- ・認承40周年記念事業・祝賀会
- ・記念講演「舞の海」“決してあきらめない”
- ・クリスマス家族交流例会



**2005** 平成17年

「JC Straight Ahead」  
しちそくしあん  
～七息思案、まず行動しよう～

四十二代目理事長  
**菊池 宏**

- ・おとうさん、おかあさんの定例会
- ・社会人としてマナーと人材教育
- ・新市誕生記念版画事業
- ・JC大運動会
- ・奥津軽虫と火まつり
- ・シミュレーションゲームでスキルアップ
- ・夏の家族交流会「芋堀り芋煮会」



**2006** 平成18年

「夢現力」  
～ふるさと創造リテラシーを育てよう～

四十三代目理事長  
**鶴賀 鉄正**

- ・公式雪合戦を体験してみよう！
- ・みんなで創る火まつり体験
- ・第36回青森ブロック会員大会in五所川原
- ・ふるさと“夢現力”探検隊
- ・奥津軽虫と火まつり
- ・得意分野を生かした新規ビジネス進出
- ・第36回青森ブロック会員大会in五所川原



**2007** 平成19年

「PROUD ONES」  
ふるさと  
～誇りある郷土 -JCへ～

三十四代目理事長  
**今 広樹**

- ・楽しいふるさと言葉
- ・奥津軽の魅力研学隊
- ・ふるさとの宝探し
- ・我が郷土(ふるさと)奥津軽～そこに魅力と可能性を見出す～
- ・奥津軽の歩み
- ・奥津軽虫と火まつり制作体験
- ・ふるさと自慢わが町CM大賞事業(CM作成)



**2008** 平成20年

うんがいそうてん  
「雲外蒼天」  
～自分を信じ 皆を信じ 青空を目指して～

四十五代目理事長  
**東 慎治**

- ・つがるっ童 徒歩修行「じょっぱりロードOMOIYARIへの旅」
- ・MOTTAINAI運動inELM
- ・奥津軽虫と火まつり
- ・ごしょがわらの夢に向かって
- ・「OMOIYARI」をもってチームワークを高めよう
- ・「五所川原市の自立の為に」inELM
- ・「OMOIYARI」会員拡大事業



2009 平成21年

かんてん きち  
「歓天喜地」  
～JCの「笑顔」が明日の地域を創造する～

四十六代目理事長  
小山内大善

- ・強い会社づくり～ビジョンに役立つコーチング
- ・ふるさとを奏でよう～みんなの声にのせて
- ・奥津軽虫と火まつり制作体験 ヤッサー!
- ・認承45周年記念祝賀会
- ・津軽のここが好き～みんなが津鉄の応援隊!
- ・「公の中の自分づくり」～使命感～
- ・対内誌「夢津軽」の発行



2010 平成22年

はつ どう  
「発動」  
～志を高く、仲間と共に地域のために～

四十七代目理事長  
奥野賢二

- ・公益法人について学ぼう
- ・JCの魅力を再発見!!～あの鐘を鳴らすのはあなた～
- ・子どもハルニレ絵画コンクール
- ・伝統のまつり継承
- ・じょっぱりロード2010～OMOIYARIへの旅～
- ・奥津軽虫と火まつり
- ・東北青年フォーラムについて学ぼう



2011 平成23年

やく どう  
「躍動」  
～仲間と共に創造し、挑戦しよう  
この奥津軽の地のために～

四十八代目理事長  
成田佳隆

- ・五所川原JC異業種交流会
- ・東日本大震災義損金活動
- ・楽しく学ぶ「奥津軽虫と火まつり」
- ・いざ発信!!東北青年フォーラム
- ・地域のために今、私たちがすべきこと
- ・まつり紙芝居「火まつり」
- ・東北青年フォーラムへ向けて



2012 平成24年

「百万一心」  
～JAYCEEの英知と勇気と情熱を結集し  
ふるさとの未来を創造～

四十九代目理事長  
今直樹

- ・東北青年フォーラムin奥津軽五所川原
- ・奥津軽虫と火まつり親善大使
- ・平成24年度五所川原市民討議会
- ・第28回わんぱく相撲五所川原場所
- ・じょっぱりロード2012「OMOIYARI」への旅
- ・「らぶ・ごしょがわら運動(仮称)」を考えよう!
- ・ワンランク上の自分づくり～積極的な自分をめざす～



2013 平成25年

でん  
「伝」  
～情熱が未来を創造する力となる  
人に地域にそして未来へ～

五十代目理事長  
小嶋英嗣

- ・次代へ繋げよう!奥津軽虫と火まつり
- ・らぶ・ごしょがわら運動
- ・選考委員会委員選挙「領収書のキホン」セミナー
- ・じょっぱりロード2013～OMOIYARIへの旅～
- ・第29回わんぱく相撲津軽地区大会
- ・魁!JC塾
- ・若手経営者のための経営塾

平成26年 **2014**

# 失敗を恐れず行動する 旗手であれ!

～我々青年の行動が未来を創る

過去に感謝し、次なる50年の扉を開こう～



第51代理事長 **平川 新介**  
Shinsuke Hirakawa

## 基本理念

失敗を恐れず行動する  
品格を持った青年による  
輝かしい未来の想像

## 基本方針

1. 正しい公益団体の維持運営と情報発信
2. 会員拡大と品格あるJAYCEEの育成
3. 市民参加型のまちづくり運動の展開
4. 伝統を継承した奥津軽虫と火まつりの開催
5. 「TOMOYARI」を育む青少年育成事業の開催
6. 認承50周年記念事業と記念式典の実施
7. 「東北三つの夢」実現への支援

## あいさつ

公益社団法人五所川原青年会議所認承60周年記念を迎えられましたことを心よりお喜び申し上げます。また日頃より、会員数が減少する中で、石田潤理事長を筆頭に「覚悟」をスローガンに掲げ、諸先輩方から脈々と受け継がれている各事業を行っていますことに敬意と感謝を申し上げます。

私が理事長の認承50周年からもう10年も経ったのかと時の早さを感じます。私が理事長を務めました2014年度は公益法人の真ただ中の頃でありまして、各種事業全て公益性を持った事業で計画いたしました。地域を巻き込み市民と手を取り合っていく事業ばかりでした。しかし、それから10年が経ちまして一つの節目が来ていると思います。10年間、公益社団法人として運動し、市民にも青年会議所を知って頂いたり、行政と共に事業を展開したり、十分な成果と経験を積んだと思います。ここからはこの10年を振り返り次の10年に入っていく行かなければなりません。全国的にも会員数の減少が顕著でLOMを運営できない地域もあると聞いています。いくら良い事業を展開していたとしても会員がいなければ今後は何もできなくなります。公益性や修練のバランスを考え事業を計画していくべきであると思いますし、そもそも公益社団法人である必要性も議論をしていかなければならないと思います。

いずれにせよ、地方は高齢化、少子化が進み今後は益々縮小した地域になっていきます。しかし、困難な時ほどJCは必要で、困難に立ち向かう過程において自己成長もしていきます。50歳に近くなると急に老いも感じるようになり、昔のように夜遅くまで会議をしたり、議論をしたりできなくなります。少人数でも良いので知恵を出し合っていく今この地域の為に今の若さを活かし突き進んでいってください。

結びに、認承60周年という大事な節目を、次なる飛躍に向けての一步とし、今後とも会員の皆様のご活躍されることを祈念申し上げます。お祝いのお言葉といたします。

## 活動の記録

### ▶ ごしょりん健康体操制作・PR事業(らぶ・ごしょがわら実行委員会) まちづくり委員会

平成25年度市民討議会報告会の場において、『短命県(市)の打開』、『五所川原のPR活動』を兼ね備えた「ごしょりん健康体操」がまちづくりに繋がるものと提案され、それを実現するためにらぶ・ごしょがわら実行委員会で制作・PRを実施した。



### ▶ じょっぱりロード2014 ～OMOIYARIへの旅～

OMOIYARI発信委員会

3泊4日100kmの旅を通して、ボランティアスタッフには大人としての自覚・責任感・利他の心・他人を思いやる気持ちを服で感じていただきます。小学生には親元を離れ身の回りの全てのことを行うことで気付く、親への感謝・尊敬・そして集団行動から仲間の大切さ・コミュニケーションの重要性を学んでいただきました。



- CREATION50 ～五所川原JC未来創造の為の定例会～
- 奥津軽虫と火まつり展示事業
- 未来の夢作文コンクール事業
- ▶ 地域魅力発信モザイクアート

50周年特別室



### ▶ 公益社団法人五所川原青年会議所認承50周年記念式典及び祝賀会

50周年特別室

これまでご尽力いただいた先輩諸兄姉、諸団体の皆様をお迎えし、開催しました。



平成27年 **2015**

# 勇往邁進

～共に突き進もう

希望あふれる未来を創るために～



第52代理事長

**佐藤 昭義**

Akiyoshi Sato

## 基本理念

一人ひとりがお互いを信じ、尊重し、  
支え合う生涯の仲間によって  
わがまちの明るい  
豊かな社会を創造する。

## 基本方針

1. 公益団体としての確かな運営と情報公開
2. わがまちの未来を担う青少年の育成
3. 奥津軽虫と火まつりの継承と更なる発展
4. 市民が誇れるまちづくり運動の展開
5. 会員資質向上と親睦を深める事業の開催
6. 未来を見据えた全会員による拡大運動の展開

## あいさつ

公益社団法人五所川原青年会議所が地域の皆様、諸団体の方々に長きに渡りご支援を頂き認承60周年を迎えた事に心よりお祝い申し上げます。私くしが理事長という大役を拝命し2015年「勇往邁進」～共に突き進もう希望溢れる未来を創るために～のローガンを柱に愛する故郷の為に果敢に挑戦し、「明るい豊かな社会」の実現に向けて2015年度歩みを進めて参りました。当時を振り返ると年当初からトラブル続きで投げ出しそうな自分がありました。一人で頑張ろうと気持ちばかり先走りどうすれば良いのか悩んだことを今でも思い出します。

当時、五所川原青年会議所は入会3年未満のメンバーが約半分となっております。会員の資質向上が必要だと考えJC運動の意義、青年会議所が掲げる三信条である「奉仕」「修練」「友情」を伝える為に会員資質向上委員会による会員が新たな気づきを得られる定例会や新入研修セミナーを開催させて頂きました。そして、公益性の高い事業として、継承と発展をキーワードに、まつり継承委員会には地域の高校生を対象にまつり親善大使を任命し、まつりを若い世代に広く周知し「奥津軽虫と火まつり」の継承と発展に繋げて頂きました。また、青少年育成委員会には郷土愛をテーマに地域の未来を担う子供たちの育成を目的とした「じょっぱりロード OMOIYARIへの旅」を開催し子ども達が日々成長する姿を目の当たりにして最終日ゴールした瞬間を見て感動したのを覚えております。

その他の事業も、市民運動促進委員会では五所川原市民討議会の開催、らぶ・ごしょがわら実行委員会によるごしょりん健康体操の推進など五所川原市と協働で事業を行いました。そして、会員減少に歯止めをかけるために会員特別室を設置し異業種交流会・若手ビジネスウーマン交流会の開催など沢山の機会を作り、一人一か所運動を実施して12名の会員が入会しました。所信で10名以上の入会を目標に掲げ達成したことは当時とてもうれしかったことを覚えております。今思い起こすと本当に五所川原JCの仲間を支えられていた事を改めて思い出しました。心より感謝いたします。

最後に、私は13年間のJC生活を経験して気づいたことは一人の力は小さいものですが、五所川原JCという素晴らしい仲間がいることを実感しました。それは、卒業して8年後も気持ちは変わりません。これからも現役メンバーには誰かが誰かを支え仲間を信じ高い目標に向かって突き進んで頂きたいと思っております。認承60周年という大きな節目を迎え更なる五所川原青年会議所の飛躍を期待します。

## 活動の記録

### ▶ 4月定例会「地域の為に我々が今学ぶべきこと!～東北JC宣言から学ぶ活動意義～」 会員資質向上委員会

東北JC宣言の策定担当者である松本光功先輩をお招きし、策定された当時の時代背景と想いを講演いただくことで青年会議所運動に携わるその意義を学んだ。



### ▶ じょっぱりロード2015 ～OMOIYARIへの旅～

青少年育成委員会

4泊5日75kmの徒歩の旅を通じて、ボランティアスタッフには大人としての自覚と責低感、利他の心、他人を思いやる気持ちを実感していただいた。また、小学生参加者にとっては親元を離れ、身の回りの全てのことをチームで行うことで気づく、親への感謝や尊敬の念、そして仲間の大切さとコミュニケーションの重要性を学んでいただいた。



### ▶ 6月公開定例会「奥津軽虫と火まつり」

まつり継承委員会

立伝武多の館前から、参加団体(虫おくり・火まつり・演舞・囃子)の隊列が岩木川河川敷まで練り歩き、河原にて神職による神事と大虫の昇天の儀式を執り行った。まつりの最後には、地域の幸せを願う「弥栄三唱」が唱えられ滞りなく終わられた。



### ▶ らぶ・ごしょがわら実行委員会

市民運動促進委員会

市民とともに私達でできる五所川原のまちづくり運動について企画運営し、本年は「ごしょりん健康体操推進事業」、「パパハグへの出店」、「青森放送わがまちCM大賞への作品出展」、「五所川原産業まつりへのらぶごしょ弁当製作販売」を行った。



平成28年 **2016**

# SUPPORT

～積極的に 明日へ向かって～



第53代理事長 **今 一憲**  
Kazunori Kon

## 基本理念

樗をつなげ! 地域と共に  
夢溢れる「故郷」の未来に向かって

## 基本方針

1. 信頼ある組織づくり・運営の確立
2. 「郷土愛」育む青少年育成事業の開催
3. 地域と共に勇壮な「奥津軽虫と火まつり」開催
4. 市民協働のまちづくり運動の推進
5. 全会員による拡大と会員個々の資質向上
6. 第46回青森ブロック大会の主管

## あいさつ

公益社団法人五所川原青年会議所認承60周年、誠におめでとうございます。この記念すべき節目にあたり、一言ご挨拶を述べさせていただきます。

五所川原青年会議所が歩んできた60年の歴史を振り返ると、感慨深いものがあります。常に「明るい豊かな社会」の実現を目指し、様々な運動を展開してまいりました。地域社会の発展のために、情熱と行動力をもって挑戦し続ける会員の姿は、私たちの誇りであり、かけがえのない財産です。

私が理事長を務めた時代も、決して平坦な道のりではありませんでした。しかし、会員一人ひとりが強い責任感と使命感を持ち、互いに協力し合いながら、困難を乗り越えてきました。共に悩み、共に笑い、共に成長していく中で、私たちはかけがえのない絆を育み、かけがえのない友情を築いてきました。

五所川原青年会議所は、単なる自己啓発の場ではありません。それは、地域社会をより良くするために、共に学び、共に考え、共にactionを起こしていく場です。この組織を通じて、リーダーシップを磨き、社会貢献の精神を育み、そして何よりも、かけがえのない仲間を得ることができました。

60周年という節目を迎えた今、過去の功績に満足することなく、未来に向けて新たな一步を踏み出す必要があります。社会は常に変化しており、私たちもその変化に対応していく必要があります。しかし、私は確信しています。五所川原青年会議所には、未来を創造していく力があると。

これからの五所川原青年会議所を担っていくのは、若い世代の皆さんです。皆さんの情熱と行動力が、五所川原の未来を、そして日本の未来を明るく照らしていくと信じています。困難に立ち向かう勇気、失敗を恐れないチャレンジ精神、そして何よりも、地域を愛する心を持ち続けてください。

最後に、五所川原青年会議所のさらなる発展と、会員皆様のご活躍を心より祈念いたします。そして、この60周年記念が、五所川原青年会議所の輝かしい歴史と未来を繋ぐ架け橋となることを願っております。

## 活動の記録

### 8月定例会 ごしょりんクエスト

青少年委員会

びしょ濡れになりながらも一生懸命郷土にあるものを探した初日の五所川原地区クエスト。一転、暑い中ほとんど歩いたことが無い場所で探し求めた金木地区クエスト。住民の優しさが伝わった市浦地区クエスト。どの地区も子供達にとって心に残る郷土として育まれたと思っています。



### 10月定例会 かだるべ五所川原

青少年委員会

20年後の自分自身と五所川原について高校生と大人がワールドカフェ方式で対話を行うことで、高校生自身が様々な角度から五所川原そして自分自身の未来を見つめ直し、「故郷」に興味を抱き愛する心を芽生えさせることを目的とし行われた。



### 五所川原市民討議会実行事業 ～津軽のかまりっこ～

地域委員会

7月に開催された市民討議会での意見を基にした事業「津軽のかまりっこ」と題して、軽トラ市の会場をお借りして、1.立佞武多囃子講座 2.方言集3.郷土料理ふるまい4.昔遊びのブースを設置し、世代間交流を目的として行いました。



### 第46回青森ブロック大会 in 奥津軽五所川原

ブロック大会特別室



平成29年 **2017**

# 挑 戦



第54代理事長

**宮崎 敬也**

Takaya Miyazaki

## 基本理念

地域への想いを持ち寄り、形にしよう  
地域の未来を切り拓くために

## 基本方針

1. 公益社団法人の継続と責務の履行
2. 自分自身の未来を切り拓く青少年の育成
3. 半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
4. 前向きな社会参画意識によるまちづくり運動
5. 会員拡大と会員相互交流の推進
6. 多面的な学びを通じた会員の資質向上

## あいさつ

当会認承60周年の歩みを迎えるに際し、心からお祝い申し上げます。

今日までの青年会議所運動に尽力くださった先輩諸兄をはじめ、各種関係団体の方々のお支えと現役会員の活躍に敬意と感謝を申し上げます。

当時、既に全国各地で人口減少が進んでいる中で今後それぞれの自治体は限られた予算を元に老朽化したインフラを維持し、増えていく社会保障を手当てしながら、各自自治体が交流人口を綱引きし合いつつ地域活性化を図らなければならないという状況が始まっていました。

そうした状況でいまJCができることとして、これまでに暮らしてきた地域や、見守り育ててくれた環境、地域の未来を切り拓いていく人材を次代に遺し繋げていくことが今を生きる私達の責務だと感じ、こうした思いから基本理念を「地域への想いを持ち寄り、形にしよう 地域の未来を切り拓くために」、そしてLOM スローガンを「挑戦」と定めさせていただきました。一人ひとりが心に抱いている地域への思い（愛や関心、より良くしたいなど様々）を一つでも持ち寄り、事業や運動という形につくり上げて実施していこう。それが後々に施した物事が繋がり合い、やがて地域全体の利益と恩恵になっていくという因果の「果」を願ってのことでした。

61年目の歩みを踏み出そうとするこの瞬間、現役会員の組織運営などで思い悩む事柄が数多くあろうかと推察されますが、当会が存続する限りは悔いの残らないよう「挑戦」し続けてくださることを願っております。

## 活動の記録

### ▶ じょっぱりロード ～OMOIYARIへの旅～

青少年育成委員会

子ども達が事業を通じて自らの可能性に気づき、感受性豊かに自分自身で行動し、社会に通用する「OMOIYARI」の精神を持ち行動していける人材になっていく事、また、普段経験することのない岩木山山頂を目指すという体験の中から、今まで経験したことのない感動、そして大きな目標を乗り越えて肌で感じる達成感、みなぎる自信を得る事、またボランティアスタッフは、これからこの地域を担って行く人材になることを目的とし、2泊3日岩木山登山を含む「じょっぱりロードOMOIYARIへの旅～」



### ▶ 奥津軽虫と火まつり親善大使 活動

まつり委員会

参加団体の減少、後継者不足が懸念される中、その解決に向け「親善大使登録会」を開催し応募された高校生・大学生に活動内容を説明することで、親善大使への登録を頂いた。親善大使活動を通じて、主体となる高校生・大学生、対象となる小学生のまつりへの興味・関心を高め、将来的な後継者の育成に繋げた。また、活動によって地域住民のまつりへの興味・関心を高めて頂いた。



### ▶ 事業市民討議会実行事業「親子で体験!森のビンゴ族」

まちづくり委員会

市民討議会で出た意見を具現化し、市民の社会参画意識の向上と五所川原の子育て環境を周知してもらうことを目的に、少年自然の家の散策コースを利用し、ビンゴ族から出されるミッションやクイズ等を解いて、またビンゴカードに書かれている物と同じ物を見つけビンゴを完成させ、得点で順位を決めるという親子で楽しめる事業を開催した。

### ▶ 10月定例会「今までのJC事業を学びこれからの事業を考える」

会員研修特別室

過去の事業を紹介しつつも、今の時代に合わせた事業の作り方を学んでいただきました。考え方の違うメンバーが一つの目的に向かい各々の考えを主張しながら事業を委員会で作っていただきました。最後には考えた事業を発表する模擬理事会を経験していただきこれまで委員長をやったことがない人などはとてもいい経験になったと思います。



平成30年 **2018****GROW UP**

～一人ひとりが未来の希望～


 第55代理事長 **坂本 興平**  
 Kohei Sakamoto
**基本理念**

感謝・信頼・希望

**基本方針**

1. 公益社団法人の継続と責務の履行
2. 青少年の可能性と未来を切り拓く育成事業の開催
3. 次なる半世紀を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
4. 前向きな社会参画意識によるまちづくり運動
5. 会員拡大と会員の資質向上の推進

**あいさつ**

2018年度は、GROW UP ～一人ひとりが未来の希望～をスローガンに掲げ運動展開をさせて頂きました。例年の事業活動はもちろんですが、特に人口減少・少子高齢化が進む日本社会において様々な運動展開をする為に、多くの仲間(同志)を増やすことが急務と考え、会員拡大に力を入れました。その結果、2018年公益社団法人日本青年会議所「第67回全国大会IN宮崎」においてAWARDS JAPAN 201850人以下の部優秀拡大LOM褒章(全国第一位)を受賞することが出来ました。五所川原青年会議所にとって初めての快挙であり、ゴールデンゴングを全国大会の壇上で池田会頭より頂戴し仲間と共に達成出来たことが一番の思い出となりました。

認承60周年という偉大な節目を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。過去の歩みと成果を深く振り返り、その偉業に感銘を受けています。これまでの成果は、先輩方の情熱と努力、そして今日ここにいる皆様の支えによるものです。私たちの活動が地域に与える影響は、数多くの事業活動を通じて証明されています。

「地域の為に、地域と共に、次世代の為に」という精神で行動し、持続可能な未来を築くために尽力してきました。

今後の展望についても、時には予期せぬ時代や社会の大きな変化(リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルス等)が生じることもあります。変化に対応するのは当たり前であり、青年会議所は「英知と勇気と情熱」をもって行動することで、世の中に新たな良い変化を創り出すことの出来る団体だと思えます。今後の活動が、地域の発展と調和をもたらす「明るい豊かな社会の実現」に繋がることを信じています。

最後に、五所川原青年会議所の60周年を迎えたこの特別な日を共に祝えることに感謝し、今後も皆様と共に未来に向かって邁進していけることを願っています。地域の皆様のご支援とご協力に感謝し、更なるご発展を心からお祈り申し上げます。

## 活動の記録

### 4月定例会「～まつりを理解し後世へ繋げよう!!～」

まつり委員会

「奥津軽虫と火まつり」50周を見据えて、持続可能な事業の構築をしていく上で会員が事業の趣旨を理解し、意義や目的を明確に且つ再認識することで、当事者意識向上に繋がること更には事業への参加率向上に繋がる最大の契機と促え、会員一人ひとりがまつりの意義を学び当事者意識を高めることを目的に開催致しました。



### 10月定例会 ～まちの「いろいろ」発信～

まちづくり委員会

五所川原のもつ文化・産業の魅力を、体験を通してより多くの方々に知っていただけるブース出展をしました。①子虫づくり体験 ②立佞武多しおり製作体験 ③ステージブース ④100周年記念ジャンボりんご提灯製作体験

本事業を会員と協力団体と一致団結して行った結果、文化・産業の持つ「いろいろ」を十分に表現することができ、また、本事業に協力していただいた方からは「このような機会があればまた協力したい」という、まちづくりの意識が生まれました。



### 優秀拡大LOM賞 人数50名以下の部 全国1位

会員拡大・交流委員会



平成31年・令和元年

2019

## CREATE55



第56代理事長

佐々木 邦和

Kunikazu Sasaki

## 基本理念

「責任」「覚悟」「自覚」  
あなたにしかできないことがある  
それはあなたがやらなければ何も変わらない

## 基本方針

1. 円滑な運営の確立・強靱な組織づくり
2. 市民参画の推進とふるさと創生事業の開催
3. 郷土に誇りを持ち、たくましく生き抜く青少年の育成
4. 地域に根差した「奥津軽虫と火まつり」の推進
5. 地域を担う人材となる為の会員の資質向上と会員拡大
6. 「修練・奉仕・友情」もっとJCが好きになる会員の育成
7. 「今だからできる」「今しかできない」周年事業の開催

## あいさつ

公益社団法人五所川原青年会議所認承60周年を迎えるにあたり、心よりお慶び申し上げます。

2019年は「CREATE55」をスローガンに、運動を展開させていただきました。

振り返ると、「コロナ禍」のない最後の年となった2019年となりますが、多くの会員に恵まれ、五所川原青年会議所の根幹ともいべき、【奥津軽虫と火まつり】【青少年育成事業】【まちづくり事業】【会員交流育成事業】【健全な組織運営】に加え、認承55周年ということで、記念事業として【立佞武多親子参加事業】と充実した1年を過ごさせていただいた記憶があります。

青年会議所は1949年に設立し、翌1951年に日本青年会議所が設けられて以降、「修練」「奉仕」「友情」の三つの信条を掲げ、明るい豊かな社会創造を目指し、運動をしている組織です。そして、この信条を掲げる組織は唯一無二の組織だと考えております。このような組織に長く籍を置かせていただいたこと、そして、様々な経験と仲間を得たことは、私が生きる中での大きな糧となったことは、今なお感じながら日々を過ごしております。

末筆となりますが、60年という長きに渡る歴史の中で、青年会議所に対してご理解、ご協力いただきました地域の皆様、関係諸団体の皆様に心より御礼申し上げます。また、人口減少・少子高齢化社会の中で、必死に地域で運動を展開している会員の皆様に敬意を表するとともに、地域にとって唯一無二のこの組織を後世に残していただくことをお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。

祝60周年おめでとう。

## 活動の記録

### 5月定例会「楽しく学んで!作って、食べて!目指せ!つがりあんシェフ」

青少年委員会

郷土の料理や特産物を学ぶための食材ハンティングゲームを行い、地域の風土や歴史を同時に学ぶことができ、地域の特産品を使った郷土料理を作ることで、食を通して郷土への関心が高まる。その郷土への関心、すなわち郷土を知り、学ぶことで、郷土への誇りが生まれ、郷土愛を持った青少年の育成を目的とした事業。



### 認承55周年記念事業 親子de立ねぶた ~手をつなごう~

認承55周年特別室

青少年育成の一環と位置付け、子供たちを対象に地域の魅力である「五所川原立佞武多」に参加していたき郷土愛を育むことを目的とし、忠孝太鼓前のスペースに柁を設け、親子で練り歩く事業。



### 認承55周年記念式典・祝賀会

認承55周年特別室

当会を支えて下さっている皆様に、感謝の意を表し、55周年記念事業を報告するとともに、60周年を見据えた意志を発信する事と、皆様との良い関係を維持し、また、発展に繋げる機会として記念式典祝賀会の開催。



令和2年 2020

## Do it, all

～みんなでやってまれ～


 第57代理事長 田中 宏明  
 Hiroaki Tanaka

## 基本理念

一人一人の  
想いを重ね、力を合わせ  
ふるさとの未来を共創する

## 基本方針

1. 信頼できる組織をつくり、運動を発信する
2. 市民参画を推進し、共感できる市民参画意識を醸成する
3. 想像力豊かに、未来を切り拓く青少年の育成
4. 地域と共に雄大な「奥津軽虫と火まつり」の開催
5. 繋げ深める友情、ENJOYできる会員交流
6. 会員拡大は全ての源、将来を見据えた拡大運動

## あいさつ

認承60周年おめでとうございます。

2020年はコロナ1年目、2月頃から未知のウイルスだ！パンデミックだ！と異様な雰囲気、感染者へのバッシングなど、事業をする雰囲気ではありません。会員からは、「事業などとんでもない」と言う意見、反対に、「こんな状況だからこそできる事をしよう」と言う意見。消極的と積極的、言い換えれば、現実的と理想的、会の方針はどちらも不都合があります。消極的だと「コロナだからしょうがない」で片づけて会の運動を止める。積極的すぎると、内からも外からも批判される。方針はバランスを取るしかありません。そのような状況でも悪い事だけではありません。それは様々なゼロベース事業が行えたからです。この良さは、企画する上で参考にするものが少なく、去年と同じようにできない。文字通りゼロから考える事は、変化の速い今の時代に重要です。一例に「五所川原をカタチに大作戦」は、小学生が五所川原の魅力をキャラクターにしたイラストを応募する事業でしたが、400名を超える応募があり、審査時には、みんな一生懸命に書いている事が伝わってきました。多くの小学生の五所川原愛は育まれたと言えます。

さて今、五所川原JCは様々な改革が求められている。人口が減り会員候補者が少ない。人手不足で会員は多忙です。つまり、入会しにくく参加しづらい。また、今の市の出生数は約200人、20年前は約520人、20年で320人減です。出生数0人の年が生きているうちに来るとしよう。このような状況で会の存続を意識するのは自然です。そして、60周年の機に、10年後20年後の五所川原JCはどうあるべきか、それを受け、何をどう改革していくべきか、セットで考える必要があり悩まれるでしょう。

現役の皆さんは、忙しくそんな時間は無いと思うかもしれませんが。しかし成り行きの未来にしない為には重要です。考えるにあたり、JCの三信条などは取っ払ってゼロから考えてはどうでしょう。自分はなぜJCをやっているのか？やっていない自分はどうなっているのか？自分なりの答えを出して仲間と話してみる。何となくであったり、答えが無かったり、そのような人は意外と多いと思います。それを分らず五所川原JCの未来は語れません。また、会員拡大や必要な改革も上手くいきません。自分がなぜJCをやっているかが根本にあるのに、無ければ当たり前と私は思う訳です。

今一度、自分を、五所川原JCを見つめ直してみよう。今までと違う一歩を踏み出せるはず。たいへん無粋な文章ではございますが、70周年も「おめでとう」と言える事を祈念して祝辞とさせていただきます。

## 活動の記録

### 今こそ五所川原らしさをカタチに大作戦

まちづくり委員会

五所川原の良いところ(魅力や特色、特産品)を考え知っていただき、市民がまちに誇りと郷土愛を育むことを目的とした事業。



### 11月定例会 今だから学ぶ! コロナ渦の青少年育成

青少年委員会

コロナ禍の中での子ども達の成長や、子ども達に対する声掛けや接し方、学校では教育できないような事を補える事業をする為のノウハウを学んでいただき、今後のより良い青少年育成事業の展開に繋がっていくことを目的とした講師例会。



### 第48回奥津軽虫と火まつり

まつり委員会

第48回「奥津軽虫と火まつり」はコロナウイルスの影響もあり、立佞武多の館から河原での大虫昇天までの演出を中止し、開催規模を縮小し、神明宮でとり行いました。



### 繋げ深める友情 ～そば処JC亭～

会員交流委員会

食文化を通して、会員同士「ENJOY」しながら交流を図ることで、さらなる仲間意識と連帯感が育まれ「繋げ深める友情」が構築されることを目的とする事業



令和3年 2021

# 自他共栄



第58代理事長 佐々木 篤史  
Atsushi Sasaki

## 基本理念

あなたの一步は自身の未来となり  
みんなの一步は地域の未来となる。  
今こそ、その一步を踏みだそう!

## 基本方針

1. 信頼ある組織運営と強靱な組織づくり
2. まちの幸せと未来を見つめるまちづくり
3. 郷土を愛する心を持った青少年の育成
4. 未来を見据えた「奥津軽虫と火まつり」の開催
5. 会員の友情を広げ地域の力となる

## あいさつ

認承60周年おめでとうございます。また、60年という長い歳月を様々なJC運動を展開し、連綿と引き継いで頂きありがとうございます。

私が理事長を務めた2021年度は新型コロナウイルス発生2年目で、世間では三密(密閉・密集・密接)の回避やソーシャルディスタンス、消毒、マスクの徹底など後世にこれを見ている人には想像できないような状況でした。目に見えないウイルスの恐怖や不安。コロナへの対応の仕方による世間の批判などは地域へ様々な運動を展開する青年会議所にとって、まさに手足を鎖で縛られたような状況でした。

しかし、そのような中でもJAYCEEである私たちは地域の為に行動することが責務であり、そして、その行動によって私たち自身も成長することが重要であると考え、「自他共栄」をLOMスローガンに選びました。コロナ禍によって事業の中止への不安や急な変更などにも負けずに行動する会員の姿や、慎重かつ積極的に様々な制約を乗り越え行われた事業をみて、少なからずこのスローガンにして良かったと自負しております。

奥津軽虫と火まつりでは受け継がれてきた炎を絶やさない為にも境内にて開催を行い、無観客でありながらWEB視聴や特大大松明の復活など工夫を凝らしたまつりを行いました。子供たちと接する必要がある青少年事業では安全面を最大限に考慮しながら事業を実施。外出もままならないコロナ禍で子どもたちが地域に触れ楽しむ姿を見られたことに感動を覚えました。また、会員に対してもコロナを考慮し、屋外で集まれるサバイバルゲームなどの交流やWEBを併用した各種事業を実施。まちづくり事業では現理事長、石田潤君が提案した伝説!の「#ドミノで繋げるまちの笑顔」など、あのような状況下でも五所川原青年会議所だからこそ運動を発信できたと確信しています。

最後に、コロナ禍での理事長を経験した私から現役会員の皆さんに伝えたいことがあります。それは、普段生活している日常というものがどれだけ素晴らしいものか改めて考えてみてください。コロナによってやりたかった事業ができなかった先輩や地域によっては天災によって普段の事業ができない仲間もいます。そのような中で色々なことに挑戦できるフィールドを持っている皆さんは幸せなことであり、そのフィールドを全力で活用して地域へこれからも素晴らしい運動を発信しながら五所川原青年会議所及び会員の皆様が躍進することを心よりご祈念申し上げます。

## 活動の記録

### 「#ドミノで繋げるまちの笑顔」

地域委員会

会員が手を取り合い、地域へ送るメッセージを作成し、まちを楽しく表現する事でまちへ希望を与え、更には、このまちへ住むことの幸せを感じてもらおうと共に、発信する事で更なる地域活性化に繋がることを目的とした事業



### 「夏の思い出2021 in 奥津軽 ～森と湖と鉄道の先に～」

青少年委員会

豊かな自然・文化・産業に触れ、郷土の魅力を肌で感じ、普段の生活では体験出来ない大自然との感動的な出会いを通して楽しみながら郷土の文化を知ること新たな発見を生み、気づき考えるプログラム



### 奥津軽虫と火まつり親善大使事業

まつり委員会

市内11校の小学校へ「奥津軽虫と火まつり」のPR動画をDVDにて配布しました。DVDの内容は親善大使が撮影した虫送りの紙芝居動画、委員会で作成したまつりPVと虫送りクイズを添付しました。授業等で小学生に観てもらい、まつりの伝承を目的としました。また祈りをこめた願い紙を書いてもらいました。



### 会員交流事業「サバイバルゲーム」

会員拡大交流委員会

サバイバルゲームを通し会員と新入会員が友情を育み、新入会員が会に馴染むことにより今後の事業成功へ繋げる事を目的とした事業。



令和4年 2022

# 迅速果断



第59代理事長 對馬 央也  
Hisaya Tsushima

## 基本理念

共に向上し合い、社会に貢献しよう

## 基本方針

1. 組織を支える確かな運営と対外への情報発信
2. 地域を牽引するまちづくり運動
3. 郷土の未来を担う青少年の育成
4. 第50回「奥津軽虫と火まつり」の開催
5. 会員拡大と交流の推進
6. JCだからこそ得られる資質向上の機会

## あいさつ

公益社団法人五所川原青年会議所が認承60周年を迎えましたことを心よりお慶び申し上げます。

さて、私が理事長を拝命しました2022年度を振り返ってみると、まだ2年前のことでありメンバーとともに運動を展開していたことがつい昨日のように思い出されます。コロナ禍として3年目を迎えた2022年度は新型コロナウイルスに翻弄された過去2年間から学び、2023年度のフルスペック開催に望みを繋げるための大事な架け橋としての一年間を目指しました。基本理念は、「明るい豊かな社会の実現を理想として戦後の復興に向き合った東京青年商工会議所創始の理念をこのコロナ禍にも当て嵌め「共に向上し合い、社会に貢献しよう」とし、LOMスローガンは、コロナ禍に翻弄されずその瞬間に成すべきことを最大限に発揮するために素早く決断し実行するという意味の「迅速果断」とし、状況に潰されることなく一年間を共に戦っていくための決意を込めさせていただきました。

2022年度の事業については、地域の弥栄を願うまつり「奥津軽虫と火まつり」が第50回という大きな節目を迎える年でした。過去2年間は神明宮境内で厳粛に執り行われましたが、50周年は河原における勇壮なまつりの開催を強行しました。これは「じょっぱりロード」「五所川原市民討議会」を始めとする全ての事業に通ずることですが、40歳で卒業する青年会議所は、たとえ3年といえども多くのメンバーが卒業してしまうことで、これまで培ってきた知識・技術・思いの継承が途絶えることが懸念されます。前述にもあるように2023年度の各事業がフルスペック開催を目指せる体制を整えるためにも、本年度出来得る最大限のカタチで開催させていただきました。「じょっぱりロード2022」ではメンバーに徒歩修行の素晴らしさを、「模擬市民討議会」では郷土の未来を思案するリーダーとしての矜持を育んでもらえたと思っております。ご協力いただきました委員長を始めとする各委員会メンバーの皆様には感謝の念に堪えません。一年間ありがとうございました。

最後に、五所川原青年会議所現役メンバーの皆様、初めに自信が無いのは当たり前のことです。これから積み上げる努力とその成果が自信となりますので決して諦めないでください。ただ一つ気を付けて欲しい。成果だけを求めている人は近道をしたがりです。近道をしたとき目的を見失っているかもしれない。やる気も次第に失せていく。そこで大切なのは目的に向かおうとする意志です。意志さえあれば必ず目的に辿り着きます。諦めずに目的を見失わずに強い意志を持ってこれからもこの先も邁進していきましょう。

## 活動の記録

### ▶ 未来を切り開けSAMURAIセミナー

会員研修特別室

1部では講演テーマを「SAMURAI」とし、これまでJCに関するセミナーを数多く行ってきた上田先輩に講演頂きながら、青年会議所の理解と誇りの醸成を図ることで、2022年度のJC運動がより良いものへ繋がるとともに、困難な中でも立ち止まることなく動くことの必要性を認識出来るよう企画し、2部では上田先輩と對馬理事長の対談を行いながら、より五所川原にフォーカスを当てた内容としながら本事業の意識の共有と2022年度の結束力を高めることを目的とし事業実施しました。



### ▶ 第50回奥津軽虫と火まつり

50周年まつり委員会

第50回奥津軽虫と火まつりは、コロナ禍に配慮し、無観客で計画し、運行を行わず、河原のみでの開催となりました。地域の皆様に見ていただく為に、YouTubeライブにて配信を行いました。

これからの「地域と、皆様の幸せ」を願い、行ったまつり。製作や段取りを行う中で色々な苦勞もありましたがご協力頂いた皆様のお陰で無事終えることが出来ました。



### ▶ じょっぱりロード2022 ～次代へ繋ぐ郷土愛とOMOIYARI～

青少年委員会

コロナ禍で過去2年開催されていない中、委員会メンバーで協議し、宿泊無しの大きな決断をしました。対象の小学生に、勉強だけでは得ることの出来ない、地域に対する郷土愛や逞しさ、思いやりの精神をじょっぱりロードを通じて育てていくことを目的とした事業。



### ▶ 模擬市民討議会

まちづくり委員会

来年度以降の市民計議会を実施する際に円滑に行えるよう。会員同士で情報を共有し次年度へ繋がる事を目的とします。



令和5年 2023

## TIME is Money

～価値ある時間を大切に～



第60代理事長 對馬 幸征  
Kosei Tsushima

## 基本理念

「適切」「適正」  
最適のタイミングで最高のパフォーマンスを

## 基本方針

1. 「地域」や「ひと」をつくる人財の拡大
2. スムーズで規律ある組織運営と情報発信の確立
3. 「社会・市民参画意識向上」を推進するまちづくり運動
4. 規律や友情を想う、次世代を担う青少年の育成事業
5. 時代に適した「奥津軽虫と火まつり」の開催
6.
  - 1. アオモリサマーサミットの主管
  - 2. 「立佞武多」に関する次世代継承事業の開催
  - 3. 認承60周年へ向けた意識向上

## あいさつ

「青年は理想に燃え、未来への期待を常に強く持ち、希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行われる理想の社会の実現を心から熱望している」

われわれの限られた時間をなんのためにだれにどうやって、費やしていかなければならないのか。その光を見出すのは、われわれしかない。

「適切」「適正」最適のタイミングで最高のパフォーマンスを。

を基本理念に掲げさせていただき、59年という永きに渡り継承されてきた様々な運動を基に2023年は5つの委員会からなる事業を展開して参りました。

スムーズで規律ある組織運営と、コンプライアンスや著作権などを公正明大な信あるSNSを活用した情報発信を行ってきた、総務広報委員会。

会員が市民を巻き込み続けてきた市民参画や社会参画意識を向上させるためにも、「市民」「行政」「当会」三位一体による市民討議会を協働してきた、まちづくり委員会。

学問はもとより、集団生活によって磨かれる規律や、家族や友達を思いやる 青少年へと成長させる機会じょっぱりロードなど開催した、青少年委員会。

昨年度50周年という節目を無事に迎え開催した、この住み暮らす地域の幸せを願うまつりの次なる半世紀へむけ、まちが、ひとが、この時にしか味わえない価値を共感する時代に適した「第51回奥津軽虫と火まつり」を開催した、まつり委員会。

本年は、7月に青森ブロック大会、名称改めアオモリサマーサミットに代わり 第52回アオモリサマーサミットの主管を五所川原青年会議所が務めさせていただき事になりました。さらには2024年度五所川原青年会議所認承60周年を迎えるにあたって、先輩たちがこんにちまで運動を展開し現役に継承されてきた、その歴史を伝播していくためにも五所川原青年会議所のこれからのあり方を次なる世代へ総合特別室を中心に繋いでまいりました。

これまでの運動に自分や仲間との活動に費やした時間はお金に換算できないくらいの価値があります。家族に仕事にJCに、費やす時間の価値は自分にしかわからず、価値ある時間を、どこに 誰に、どうやって費やすのか自問自答し活動してきました。本質を見定め共に歩んでいく時だからこそ「TIME Is Money～価値ある時間を大切に～」をLOMスローガンにし、自分の価値ある時間で能動的に行動することが まちや、ひとに変革をもたらし、信じてきました。

どうか、会員ひとりひとりが魅力溢れるこの地域をさらに良くしていこうと意識高揚され「明るい豊かな社会の創造」に繋がる、そんな五所川原青年会議所になることを願っております。地域の皆様のご支援とご協力に感謝し、更なるご発展を心からお祈り申し上げます。

## 活動の記録

### 令和5年五所川原市民討議会

まちづくり委員会

五所川原市民1,200人を無作為に選出し、参加承諾者のうち30名を抽選し、決められたテーマに沿って討議を行い、討議結果を五所川原市へ提言する事業。



### 「じょっぱりロード2023 ～OMOIYARIの旅～」

青少年委員会

子供たちの思いやりの心と友情を育む事業ということで第12回目を迎える「じょっぱりロード2023～OMOIYARIの旅～」を開催しました。西北五地域の子供たち30名と高校生ボランティア13名で2泊3日の徒歩修行の旅を行いました。



### 親子de 立佞武多・親子de囃子

総合特別室

祭り継承者の育成と位置付け、市内の小学生、園児とその親を対象とし、「五所川原立佞武多」に参加してもらうことで、祭りへ対する興味や関心を深めることを目的とした事業を実施しました。祭りになくはない囃子、この祭りの音色を自ら奏でることにより、さらに祭りへの興味と継続的な参加を見込み、市内の小学生4～6年生とその親を対象として募集し、囃子団体の礎会の協力のもと、合同練習を経て親子de 立佞武多とともに運行致しました。



### 第52回アオモリサマーサミットin五所川原



# この先10年後へのビジョン

## はじめに

本県は1999年以降、自然減・社会減の両面で人口減少の一途を辿り、この現象は少子高齢化や地域・日本経済など様々な要因が絡み合い発生しています。

このような情勢の中、我々が掲げる「明るい豊かな社会」の実現を目指すためには、我々青年会議所の力だけでは到底達成できず、近隣の自治体や自治会、民間企業、NPO団体等と連帯し、官民地域協働でこの課題に向き合っていかなければなりません。

今回、中期ビジョンを作成するにあたり、五所川原青年会議所が西北五圏域の地域社会に対して、どのように貢献し、また、会員が何を目的として青年会議所という組織に関わっていくか。今後の進むべき指標として「使命 (Mission), Vision(方針), Value(価値)」を定めました。

## 五所川原青年会議所の中期ビジョン

### Mission(使命)

「明るい豊かな社会」  
の実現

### Factor(要因)

地域を牽引する人材の開発・育成

新たな機会の提供・価値観の創出

多くの人を巻き込み、運動を拡大・加速

### Vision(中期活動方針)

地域への奉仕

会員の成長に繋がる  
成長機会の提供

地域の未来を担う  
青少年の育成

地域文化の  
継承と発展

地域産業の  
維持と発展

行政・地域企業・  
地域住民との連帯

### Value(価値)

- ・地域社会から見た五所川原青年会議所の価値  
地域社会の維持・発展に寄与  
新たな機会の提供・価値観の創出
- ・会員から見た五所川原青年会議所の価値  
自己実現のための成長基盤  
自己成長による社業・稼業への貢献  
新たなビジネスの創出、マーケットの育成・拡大  
生涯の友人(人脈の構築)

青年会議所の三信条

修練・奉仕・友情

## 1. 使命・目的(Mission)

私たちの使命は「明るい豊かな社会」の実現です。これを実現するためには、地域を牽引する人材の開発・育成を行い、新たな機会・価値観を創出し、多くの人を巻き込んで様々な運動を拡大・加速させていく必要性があります。

また、青年会議所運動の中で鍛え磨かれた「英知」と、失敗を恐れず果敢に「挑戦」する勇氣、物事を成し遂げんとする「情熱」を持って行動しなければなりません。

## 2. 方針(Vision)

五所川原青年会議所では、「明るい豊かな社会」を実現するために、以下の方針に基づき活動を推進します。

### ・会員の成長に繋がる成長機会の提供

すべての会員に様々な成長の機会を提供し、地域を牽引するリーダーの育成を実施する。

#### ◆4つの機会

自己成長の機会、社会貢献の機会、ビジネスの機会、国際の機会

### ・地域の未来を担う青少年の育成

青少年の「自立」および「地域参加」を促進し、地域の未来を担う健全な青少年の育成事業を行うと共に、青少年の郷土愛を育む。

### ・地域文化の維持と発展

地域の幸せを願う「奥津軽虫と火まつり」を始め、ねぶた祭りなど地域文化の継承維持・発展に努める。

### ・地域産業の維持と発展

西北五圏域には、世界に誇る自然が活きる地域として優良な穀倉地帯・豊富な水産資源・美しい自然景観があります。これらの自然保護に努めると共に、新たな産業の創出および担い手の創出の一助となります。

### ・行政、地域企業、地域住民との連帯

自治体や地域コミュニティ、民間企業、他NPO団体との協働の輪を広げ、地域当事者間の連帯を深めるとともに、圏域の維持・発展に努めます。

## 3. 価値(Value)

### ・地域社会から見た五所川原青年会議所の価値

地域社会の維持・発展に寄与

新たな機会の提供・価値観の創出

### ・会員から見た五所川原青年会議所の価値

自己実現のための成長基盤

自己成長による社業・稼業への貢献

新たなビジネスの創出、マーケットの育成・拡大

生涯の友人（人脈の構築）

### ・三信条「修練・奉仕・友情」

奉仕を行う団体は世の中にいくらでもあり、修練を受けられる団体・企業も営利非営利問わず存在します。青年会議所が青年会議所たる所以は、「青年が社会により良い変化をもたらすためにリーダーシップの開発と成長の機会を提供する」ことを使命とした組織体であることです。

そして強力なフレンドシップによって互いに成長・刺激し合い、社会にも奉仕する。このような団体は青年会議所以外には存在しません。

立佞武多継承の為

# 親子de立佞武多 ねぶた制作事業

## ◆事業背景

五所川原立佞武多、以前は市民が気軽に参加できたまつりであったが、観光化が進むにつれて規制が厳しくなり、現在では以前から参加していた関係者やその友人以外参加する窓口がほぼなくなってしまい、地元の人が参加する祭りではなく、見る祭りだと認識されるようになってしまった現状があります。その状況に対し当会では2019年に55周年事業の一環で五所川原立佞武多に親子で参加することを目的に「親子de立佞武多」事業を企画し実行し、毎年600人ほどの参加者を募る事業となってきました。また2023年からは囃子も行うようになり、今年度は30名ほどの市民の参加をいただき、より市民の立佞武多に対する参加のきっかけづくりに一役買ってまいります。そしてさらに立佞武多への愛着心をもっていただき、参加してもらうために計画に至りました。

## ◆事業目的

五所川原立佞武多を正しく後世に祭りを伝えていくために多くの市民に立佞武多への理解を進め、参加するきっかけにとするため小型立佞武多本体の作成の一部である紙張りを市民と共に行い五所川原市立佞武多本番である8月4日～8日の運行を行い、祭り終了後の解体を行います。

## ◆事業概要

当会卒業生であり、元立佞武多製作者、現青森ねぶた祭り ねぶた師である福士裕明先輩に依頼、骨組みを作成してもらったねぶたに紙張りを市民に募集をかけて行います。

作成したねぶたは2025年度五所川原立佞武多にて運行を行います。

題名 小野忠造激流と戦う

小野忠造激流と戦う



# 2024年度会員名簿

2024年11月16日現在

	氏名	勤務先／勤務先住所・TEL	入会年度
1	石田 潤 (S59.5.31)	 (株)ホンダセンターナリコー 店長 五所川原市中央6-48 (35) 5432	2016
2	對馬 幸征 (S59.9.3)	 (株)第一電設工業 代表取締役 五所川原市大字広田字榊森42-25 (35) 4466	2011
3	高橋 溪太 (H1.2.10)	 cafe&bar LOVEPOTION2 代表 五所川原市本町26-6 (26) 6150	2018
4	川浪 剛功 (H3.1.27)	 農業 五所川原市藻川字村崎604-1	2018
5	佐々木 康幸 (S60.1.12)	 ギークベース 五所川原市唐笠柳字藤巻509-3 ネイルサロンCatHand内 080-5574-0199	2021
6	工藤 智哉 (S62.9.8)	 (株)青森舗道 専務取締役 五所川原市金木町川倉宇田野155-208 (53) 2232	2015
7	小野 顕成 (H1.7.31)	 五所川原スポーツ接骨院 院長 五所川原市姥苅字船橋45-9 (35)0131	2015
8	今 孝夫 (S61.9.8)	 (株)今工務所 専務取締役 五所川原市鎌谷町504-1 (34) 3361	2022
9	島谷 昌孝 (S63.9.23)	 (株)ミワ電工 取締役営業部次長 五所川原市漆川字袖掛153-14 (35)4620	2018
10	吉田 富士雄 (H4.1.22)	 広陽ビルサービス(株)東北環境Management(株) 青森営業所長、代表 五所川原市七ツ館字虫流50-44、49-78 (35) 0820	2019
11	川浪 永 (S62.5.28)	 プラザマリユウ五所川原 係長 五所川原市雛田181-2 (33) 5001	2023
12	伝法谷 洋匡 (H12.7.6)	 炭火焼ダイニング でん 五所川原市川端町38 (33) 1531	2023
13	木村 重太 (H6.6.4)	 新宮団地こども園 副園長補佐 五所川原市若葉2-1-8 (35) 1005	2023

	氏 名	勤務先／勤務先住所・TEL	業 種	入会年度
14	大澤 慎司 (H1.6.11)	 (有)羽藤商事 営業 つがる市柏下古川絹森270	(35) 3835	2018
15	貴田 祐吾 (H8.12.19)	 (有)西北塗装 五所川原市中央4-60	(35) 2751	2023
16	平山 智久 (S60.4.6)	 (株)青海建設 専務取締役 中泊町大字今泉字布引101-1	(69) 3033	2011
17	棟方 大輝 (S62.6.10)	 (有)棟方技建 取締役 鶴田町木筒西柳川64-6	(22) 3968	2018
18	竹内 大介 (H1.3.11)	 (株)竹内組 代表取締役 中泊町大字芦野字福泊23	(57) 2705	2019
19	成田 健斗 (H1.12.7)	 (株)ふぁみりあ 代表取締役 五所川原市高野字北原222-1	(26) 7161	2019
20	葛西 喬 (S60.4.2)	 美酒佳肴 璃庵 代表 五所川原市大町503-3	(33) 1524	2023
21	野上 新一朗 (S60.8.30)	 (株)中里観光 代表取締役 中泊町大字高根字小金石1405	(58) 3883	2017
22	葛西 翔悟 (S60.4.18)	 (有)サンビック 取締役 五所川原市大字高野字柳田247-3	(29) 4343	2016
23	川村 優弥 (S59.2.21)	 (有)川村建匠 専務 五所川原市広田榊森56-9	(33) 9145	2016
24	平山 厚生 (S61.6.23)	 平山開発(株) 代表取締役専務 中泊町大字今泉字神山59-1	(58) 3123	2018
25	中元 郁美 (H4.4.13)	 8 (エイト) オーナー 五所川原市川端町368-13 祐伸ビル2F		2022
26	太田 竜昂 (H2.2.1)	 (有)アトリエ久光 五所川原市水野尾字懸樋40-1	090-7793-6431	2023
27	高橋 裕 (S59.12.14)	 山田板金工業(株) 五所川原市大字浅井字種取17-24	(27) 3678	2023

	氏 名	勤務先／勤務先住所・TEL	業 種	入会年度
28	山田 貴之 (S61.5.6)	 (有)M・A・B 五所川原市大字稲実字開野69-1	090-2462-5979	2011
29	古川 竜太 (S62.2.9)	鶏創作 yakitori とりっぷ 代表 五所川原市川端町368-7	(26) 6266	2024
30	山田 瀧仙 (S61.2.19)	妙法寺 副住職 中泊町中里字宝森335-1	(57) 2515	2024
31	澤田 佳純 (S63.10.25)	柊 Hiiragi 五所川原市本町26-3本町サトー第二ビル1F6号	(33) 9933	2024
32	清野 晋太郎 (H5.11.11)	菓子工房TATUYA 店長 五所川原市唐笠柳字藤巻517-1 ELMの街ショッピングセンター内	(33) 6020	2024
33	成田 佳誠 (S60.10.15)	株式会社ダンライ 専務取締役 五所川原市中央六丁目61番地	(34) 6778	2024
34	川浪 史順 (S63.8.31)	株式会社ダブルエム 有料老人ホームひまわり 次長 鶴田町野木下糺69	(26) 0057	2024
35	野呂 大地 (H5.6.18)	有限会社野輪商会 専務取締役 五所川原市下平井町176	(35) 7111	2024
36	三 瀧 沙 織 	五所川原青年会議所 事務員 五所川原市東町17-5	(35) 4049	

# 特別会員名簿

2024年11月16日現在

	氏名	生年月日	卒業年度		氏名	生年月日	卒業年度
1	木下 清	(S6.8.1)	1971	24	中山 捷利	(S19.9.17)	1984
2	成田 誠一	(S8.9.20)	1973	25	堀内 貞俊	(S.20.7.10)	1985
3	木村 佳一	(S8.11.6)	1973	26	成田 篤信	(S21.8.28)	1986
4	高橋 正二	(S9.11.20)	1974	27	太田 忠治	(S21.10.1)	1986
5	三浦 秀男	(S12.2.20)	1977	28	荒木 関信三	(S22.2.21)	1987
6	鶴谷 禄郎	(S13.3.14)	1978	29	小坂 睦男	(S22.3.4)	1987
7	下山 寛	(S13.9.3)	1978	30	阿久戸 光彦	(S22.6.5)	1987
8	平泉 友弘	(S13.9.4)	1978	31	外崎 勲	(S22.6.18)	1987
9	斉藤 英明	(S13.11.10)	1978	32	安田 聖道	(S22.7.13)	1987
10	斉藤 千秋	(S14.1.12)	1979	33	一戸 俊男	(S22.8.27)	1987
11	渋谷 尚武	(S14.8.17)	1979	34	森下 典光	(S23.1.3)	1988
12	半澤 弘通	(S14.9.26)	1979	35	越谷 喜史	(S23.3.30)	1988
13	尾崎 行雄	(S16.1.5)	1981	36	太田 清一郎	(S23.5.9)	1988
14	上田 昌広	(S16.4.10)	1981	37	木村 隆	(S23.8.16)	1988
15	成田 博昭	(S16.12.24)	1981	38	櫛引 忠造	(S23.9.25)	1988
16	宮川 忠義	(S17.3.6)	1982	39	坂田 啓一	(S23.9.25)	1988
17	川村 肇	(S17.4.29)	1982	40	中村 英則	(S23.12.3)	1988
18	櫛引 一雄	(S17.4.29)	1982	41	山口 孝夫	(S24.4.12)	1989
19	野口 富男	(S17.10.31)	1982	42	中野 修治	(S24.10.24)	1989
20	福間 博志	(S18.1.20)	1983	43	倉水 則秋	(S24.11.8)	1989
21	葛西 穂	(S18.2.9)	1983	44	小野 潤一	(S25.4.18)	1990
22	島村 吉三久	(S18.2.23)	1983	45	今 謙一	(S25.5.13)	1990
23	藤田 忠	(S19.1.19)	1984	46	神 孝幸	(S25.6.8)	1990

	氏 名	生年月日	卒業年度		氏 名	生年月日	卒業年度
47	上 見 研 悟	(S25.7.25)	1990	72	竹 内 靖 雅	(S30.1.1)	1995
48	石 井 静 作	(S25.9.24)	1990	73	飛 島 浩 一	(S30.7.20)	1995
49	荒 関 廣 美	(S25.11.8)	1990	74	秋 田 久 雄	(S30.11.30)	1995
50	佐 藤 成 侯	(S25.11.19)	1990	75	天 内 義 秋	(S30.1.2)	1995
51	藤 田 正 喜	(S26.2.16)	1991	76	對 馬 勉	(S30.3.14)	1995
52	對 馬 豊	(S26.5.30)	1991	77	木 村 修 一	(S30.3.20)	1995
53	尾 崎 淳 一	(S26.7.2)	1991	78	坂 本 義 美	(S30.5.20)	1995
54	相 馬 義 明	(S26.7.8)	1991	79	下 山 明	(S30.6.19)	1995
55	外 崎 浩 二	(S27.4.30)	1992	80	工 藤 武二三	(S30.12.1)	1995
56	前 田 武 光	(S27.5.3)	1992	81	松 本 友 義	(S30.12.2)	1995
57	桑 田 茂 樹	(S27.6.15)	1992	82	嶋 口 裕 康	(S31.1.27)	1996
58	蒔 田 広 樹	(S28.2.27)	1993	83	辻 正 弘	(S31.1.30)	1996
59	木 村 慶 憲	(S28.3.25)	1993	84	三 上 秀 昭	(S31.3.8)	1996
60	福 士 和 弘	(S28.4.26)	1993	85	渋谷 公 智	(S31.5.2)	1996
61	渋谷 讓 二	(S28.6.6)	1993	86	成 田 憲 昭	(S31.8.25)	1996
62	長 内 利 樹	(S28.6.13)	1993	87	梅 田 英 行	(S33.2.17)	1998
63	斉 藤 透	(S28.10.14)	1993	88	佐 藤 浩 明	(S33.5.2)	1998
64	松 谷 憲 暁	(S28.12.23)	1993	89	高 杉 桂 吉	(S33.6.6)	1998
65	岩 谷 勇 幸	(S29.1.1)	1994	90	斎 藤 和 博	(S33.7.29)	1998
66	太 田 洋 一	(S29.4.16)	1994	91	岩 谷 教 裕	(S33.9.9)	1998
67	山 口 俊 輔	(S29.4.19)	1994	92	米 谷 和 喜	(S33.10.1)	1998
68	佐々木 孝 昌	(S29.5.27)	1994	93	野 呂 尚 司	(S33.10.21)	1998
69	坂 本 昇 司	(S29.6.20)	1994	94	山 田 和 宗	(S34.2.26)	1999
70	上 見 明	(S29.6.20)	1994	95	成 田 和 保	(S34.7.15)	1999
71	高 橋 佳 久	(S29.8.4)	1994	96	山 形 充	(S34.8.1)	1999

	氏 名	生年月日	卒業年度		氏 名	生年月日	卒業年度
97	舩 甚 比呂俊	(S34.10.21)	1999	122	三 浦 敦	(S39.7.12)	2004
98	藤 田 勝 弘	(S34.12.4)	1999	123	山 川 誠 吾	(S39.9.13)	2004
99	和 島 隆 志	(S34.12.20)	1999	124	木 村 明 彦	(S39.9.14)	2004
100	寺 田 憲 司	(S34.12.27)	1999	125	津 島 克 正	(S40.4.6)	2005
101	佐 藤 工	(S35.1.3)	2000	126	土 井 悟	(S40.6.23)	2005
102	鈴 木 潤	(S36.1.23)	2001	127	菊 池 宏	(S40.8.24)	2005
103	三 浦 重 義	(S36.2.4)	2001	128	小 野 篤	(S41.1.8)	2006
104	阿 部 祐 一	(S36.3.13)	2001	129	小 野 敦 司	(S41.4.27)	2006
105	成 田 孝 幸	(S36.3.15)	2001	130	小田桐 二 郎	(S42.6.11)	2007
106	小田桐 憲 一	(S36.5.3)	2001	131	一 戸 満	(S42.8.10)	2007
107	小田桐 正 繁	(S36.5.25)	2001	132	寺 田 和 仁	(S42.8.13)	2007
108	齊 藤 宏	(S36.5.29)	2001	133	小山内 高 雄	(S.43.7.16)	2008
109	太 田 久 光	(S36.6.26)	2001	134	今 広 樹	(S43.7.22)	2008
110	寺 田 政 史	(S36.9.24)	2001	135	東 慎 治	(S43.11.23)	2008
111	高 橋 弘 行	(S36.11.17)	2001	136	平 山 幸 司	(S44.11.19)	2009
112	菊 地 祥 治	(S37.2.24)	2002	137	安 田 義 宏	(S44.12.12)	2009
113	相 川 金 祐	(S37.3.23)	2002	138	敦 賀 鉄 正	(S44.12.23)	2009
114	稲 葉 好 彦	(S37.6.22)	2002	139	小山内 大 善	(S45.1.11)	2010
115	大 村 祥 一	(S37.6.25)	2002	140	貴 田 麻記子	(S45.2.24)	2010
116	丸海老 隆	(S38.3.22)	2003	141	寺 田 明 代	(S45.6.2)	2010
117	斎 藤 彰 浩	(S38.4.15)	2003	142	小田桐 徹 明	(S46.2.28)	2011
118	尾 崎 敏 志	(S38.4.16)	2003	143	成 田 佳 隆	(S46.4.6)	2011
119	前 田 修 子	(S38.6.10)	2003	144	奥 野 賢 二	(S46.6.13)	2011
120	秋 元 康 宏	(S38.7.3)	2003	145	葛 西 貴	(S46.12.15)	2011
121	木 村 讓	(S38.10.1)	2003	146	工 藤 守 久	(S46.12.20)	2011

	氏 名	生年月日	卒業年度		氏 名	生年月日	卒業年度
147	今 直 樹	(S47.1.17)	2012	172	秋 田 純	(S 51.6.30)	2016
148	須 藤 大 樹	(S47.4.7)	2012	173	平 川 新 介	(S 51.7.10)	2016
149	嶋 谷 留 美	(S47.5.25)	2012	174	原 田 美由紀	(S 51.9.5)	2016
150	白 戸 裕 丈	(S47.6.11)	2012	175	小笠原 崇 文	(S 51.11.3)	2016
151	荒 関 真 紀	(S47.8.10)	2012	176	佐 藤 昭 義	(S 51.11.19)	2016
152	田 中 儀 昌	(S47.8.30)	2012	177	大坂谷 努	(S 52.1.18)	2017
153	工 藤 貴 宏	(S47.11.1)	2012	178	成 田 和 代	(S 52.1.19)	2017
154	成 田 和 美	(S47.11.27)	2012	179	中 西 宗 興	(S 52.1.30)	2017
155	鳴 海 優 樹	(S47.12.19)	2012	180	菊 池 孝 一	(S 52.6.25)	2017
156	松 山 昇 栄	(S48.1.5)	2013	181	楢 崎 誉 人	(S 52.8.20)	2017
157	松 野 健	(S48.2.2)	2013	182	今 一 憲	(S 52.11.9)	2017
158	高 橋 孝 佳	(S48.8.1)	2013	183	境 谷 幸 人	(S 52.12.10)	2017
159	平 山 敦 士	(S48.9.21)	2013	184	高 橋 尚 裕	(S 53.3.6)	2018
160	藤 田 浩 次	(S48.10.1)	2013	185	片 山 真 治	(S 53.5.24)	2018
161	千 葉 友 紀	(S48.12.12)	2013	186	森 下 洋 光	(S 53.7.3)	2018
162	小 嶋 英 嗣	(S 49.2.19)	2014	187	桑 田 剛 俊	(S 53.7.17)	2018
163	角 田 浩 志	(S 49.3.27)	2014	188	秋 元 隆	(S 53.8.1)	2018
164	山 田 真 一	(S 49.8.15)	2014	189	上 見 一 嘉	(S 53.11.1)	2018
165	荒 関 晃 介	(S 50.9.14)	2015	190	平 田 ユキ子	(S 53.12.12)	2018
166	工 藤 晃 史	(S 50.9.21)	2015	191	坂 本 興 平	(S 54.1.27)	2019
167	乘 田 正 純	(S 50.5.15)	2015	192	金 本 康 伸	(S 54.4.9)	2019
168	工 藤 誠	(S 50.2.20)	2015	193	宮 崎 敬 也	(S 54.5.2)	2019
169	長谷川 泰 典	(S 50.11.11)	2015	194	成 田 若 菜	(S 54.6.2)	2019
170	齋 藤 直 飛人	(S 50.7.5)	2015	195	下川原 伸 彦	(S 54.10.5)	2019
171	松 橋 康 成	(S 51.2.29)	2016	196	高 橋 美 奈	(S 55.4.4)	2020

	氏 名	生年月日	卒業年度		氏 名	生年月日	卒業年度
197	小 寺 幸 一	( S 55.5.1)	2020				
198	平 山 稔 洋	( S 55.6.7)	2020				
199	和 田 祐 治	( S 55.8.7)	2020				
200	田 中 宏 明	( S 55.12.15)	2021				
201	三國谷 賢 吾	( S 56.8.27)	2021				
202	福 士 裕 朗	( S 56.9.21)	2021				
203	佐々木 秋 子	( S 56.10.16)	2021				
204	佐々木 篤 史	( S 56.10.31)	2021				
205	山 口 和 徳	( S 57.3.4)	2022				
206	小 野 映里佳	( S 57.6.29)	2022				
207	平 田 浩 介	( S 57.9.8)	2022				
208	佐々木 邦 和	( S 57.9.18)	2022				
209	吉 田 博 貴	( S 57.12.6)	2022				
210	對 馬 央 也	( S 58.1.10)	2023				
211	高 松 一 政	( S 58.2.9)	2023				
212	花 田 憲一郎	( S 58.2.26)	2023				
213	木 村 健太郎	( S 58.4.9)	2023				
214	島 村 豊 次	( S 58.5.16)	2023				
215	青 山 翼 沙	( S 58.5.16)	2023				
216	葛 西 良 樹	( S 58.7.13)	2023				

## 物故会員名簿

2024年11月16日現在

	氏名	逝去年月日	年齢	役職
1	福井俊夫	昭和45年12月17日逝去	(37歳)	
2	奥野勝康	昭和48年11月15日逝去	(28歳)	
3	工藤勇	昭和50年10月9日逝去	(39歳)	10代目理事長

## 物故特別会員名簿

2024年11月16日現在

	氏名	逝去年月日	年齢	卒業年度	役職
1	大村昭五	昭和55年6月27日逝去	(52歳)	昭和45年卒	3代目理事長
2	安田孝右 <small>工門</small>	昭和56年6月17日逝去	(48歳)	昭和48年卒	
3	前田紀夫	昭和57年9月8日逝去	(46歳)	昭和52年卒	13代目理事長
4	斎藤次郎	昭和62年8月5日逝去	(53歳)	昭和49年卒	
5	対馬弘育	昭和63年11月21日逝去	(55歳)	昭和48年卒	
6	森田稔夫	平成3年7月8日逝去	(54歳)	昭和52年卒	
7	貴田孝悦	平成5年3月16日逝去	(44歳)	平成元年卒	
8	下山功	平成5年5月9日逝去	(63歳)	昭和44年卒	
9	岩谷一正	平成5年6月23日逝去	(62歳)	昭和47年卒	8代目理事長
10	柴谷英樹	平成6年4月16日逝去	(59歳)	昭和50年卒	
11	長谷川雄三	平成8年6月12日逝去	(65歳)	昭和45年卒	
12	古川敏夫	平成9年7月9日逝去	(56歳)	昭和47年卒	18代目理事長
13	前田堅	平成9年8月7日逝去	(67歳)	昭和46年卒	6代目理事長
14	山谷清	平成10年11月22日逝去	(63歳)	昭和50年卒	12代目理事長
15	木村光雄	平成13年3月5日逝去	(70歳)	昭和45年卒	
16	山本武	平成14年9月18日逝去	(73歳)	昭和45年卒	
17	田中初右 <small>工門</small>	平成15年8月7日逝去	(66歳)	昭和53年卒	
18	檜崎茂樹	平成17年1月29日逝去	(57歳)	平成元年卒	
19	佐々木康智	平成17年10月19日逝去	(79歳)	昭和42年卒	初代理事長
20	岩谷修	平成17年10月31日逝去	(61歳)	昭和60年卒	
21	小林道生	平成18年3月6日逝去	(69歳)	昭和52年卒	
22	成田實	平成19年1月9日逝去	(80歳)	昭和43年卒	5代目理事長
23	成田徳博	平成19年4月8日逝去	(66歳)	昭和58年卒	
24	大西世鎬	平成19年12月1日逝去	(80歳)	昭和44年卒	
25	斉藤哲朗	平成20年4月19日逝去	(56歳)	平成5年卒	
26	丸海老祐造	平成20年8月14日逝去	(81歳)	昭和43年卒	2代目理事長
27	坂本和彦	平成22年1月8日逝去	(62歳)	昭和62年卒	22代目理事長
28	斉藤春雄	平成22年4月6日逝去	(79歳)	昭和46年卒	
29	成田達昭	平成22年5月18日逝去	(47歳)	平成15年卒	
30	宮崎清市	平成22年9月10日逝去	(63歳)	昭和62年卒	
31	木村正	平成23年7月23日逝去	(73歳)	昭和53年卒	
32	小関紀幸	平成23年8月25日逝去	(71歳)	昭和55年卒	

	氏名	逝去年月日	年齢	卒業年度	役職
33	山口 精治	平成24年 8月27日逝去	(75歳)	昭和52年卒	
34	白取 榮二	平成24年逝去		昭和51年卒	
35	鶴谷 光夫	平成24年逝去		昭和55年卒	
36	佐々木 正明	平成25年 4月22日逝去	(59歳)	平成 5年卒	25代目理事長
37	神 清満	平成26年 1月 2日逝去	(64歳)	昭和64年卒	
38	小林 昭二	平成26年 1月 3日逝去	(76歳)	昭和52年卒	
39	金川 豊	平成26年 5月23日逝去	(66歳)	昭和62年卒	
40	高橋 茂一	平成26年10月 3日逝去	(85歳)	昭和44年卒	
41	荒木関 正幸	平成26年11月 2日逝去	(72歳)	昭和56年卒	14代目理事長
42	黒 滝 定一	平成27年 1月21日逝去	(78歳)	昭和53年卒	
43	小田川 一夫	平成27年 4月 5日逝去	(54歳)	平成14年卒	39代目理事長
44	工藤 忠比古	平成27年 4月15日逝去	(67歳)	平成 1年卒	
45	川嶋 寛	平成27年 8月20日逝去	(84歳)	昭和47年卒	
46	齋藤 徹	平成28年逝去	(51歳)	平成17年卒	
47	島村 美徳	平成29年 1月13日逝去	(56歳)	平成14年卒	
48	寺田 春一	平成29年 7月10日逝去	(72歳)	昭和60年卒	
49	林 浩	平成29年 8月18日逝去	(85歳)	昭和47年卒	7代目理事長
50	高橋 雅人	平成29年10月13日逝去	(61歳)	平成 9年卒	
51	原 太津美	平成29年逝去	(87歳)	昭和45年卒	
52	平山 誠敏	平成30年 8月14日逝去	(79歳)	昭和55年卒	15代目理事長
53	一戸 省二	平成30年逝去	(65歳)	平成 5年卒	
54	高橋 順造	平成31年 2月25日逝去	(76歳)	昭和59年卒	20代目理事長
55	木村 重治	令和元年 9月 7日逝去	(83歳)	昭和52年卒	
56	斉藤 徳久	令和元年逝去	(92歳)	昭和43年卒	
57	高井 慎一	令和 3年 8月26日逝去	(71歳)	平成 2年卒	
58	坂本 憲昭	令和 4年 8月23日逝去	(89歳)	昭和49年卒	11代目理事長
59	佐藤 方信	令和 4年 6月30日逝去		平成 2年卒	
60	小林 康男			昭和63年卒	
61	川嶋 康嗣			平成 8年卒	
62	木村 吉幸	令和 6年 3月11日逝去	(68歳)	平成 9年卒	31代目理事長
63	神 泰幸	令和 6年 4月21日逝去	(78歳)	昭和62年卒	21代目理事長
64	澤田 長一郎	令和 6年 6月20日逝去	(93歳)	昭和47年卒	
65	角田 保	令和 6年 7月 1日逝去	(74歳)	平成 3年卒	
66	葛西 仁	令和 6年10月 9日逝去	(64歳)	平成13年卒	
67	菊地 祥一	令和 6年10月21日逝去	(88歳)	昭和52年卒	